

# 市民意識調査を踏まえた検討の視点

---

2020年(令和2年)9月  
福山市

# 目 次

1	中心市街地が活性化し、魅力あふれるまち	1
①	中心市街地の活性化	1
②	情報発信の充実	3
③	観光振興	5
2	子どもたちの笑顔が輝き、誰もが健康でいきいきと暮らせるまち	7
①	「福山ネウボラ」の充実	7
②	高齢者支援	11
③	障がい者支援	14
④	医療サービスの充実	15
3	活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち	17
①	地域経済を支える産業の活性化	17
②	誰もが働きやすい雇用環境の実現	19
③	先端技術の活用促進	21
④	農林水産業の活性化	23
⑤	交流・物流ネットワーク機能等の産業インフラの整備	25
⑥	災害への備え	27
⑦	環境対策	28
⑧	暮らしを支える地域交通の確保	29
⑨	安全・快適な上下水道施設の整備	31

4	世界や地域で活躍し、未来を創造する“ひと”を育むまち	33
①	学校教育の充実	33
②	世界で活躍できる人材育成と大学・研究機関機能の充実	35
③	まちづくりへの市民参加機会の充実	37
5	歴史・文化が薫り、スポーツに親しめるまち	39
①	歴史・文化資源を活用したまちの活性化	39
②	スポーツ・レクリエーションを行うための施設整備や情報・機会の充実	41

※満足度

「満足」：2点，「やや満足」：1点，「どちらともいえない」：0点，「やや不満」：-1点，  
「不満」：-2点で得点化し，その合計を全回答者数で除したものを。

## 検討資料の見方

### 1 中心市街地が活性化し、魅力あふれるまち

#### ① 中心市街地の活性化

市民意識調査、現計画における取組及びその他行政が行ったアンケート調査等を踏まえた分析内容を記載

（【 】内はアンケート調査項目）

分析内容の根拠となるデータを記載

#### 検討の 視点

分析結果から見える今後取り組まなければならない課題を、市民のまちづくりのニーズとして捉え、次期ビジョンに必要な施策を検討する際の視点として整理したものを記載



# 1 中心市街地が活性化し、魅力あふれるまち

## ① 中心市街地の活性化

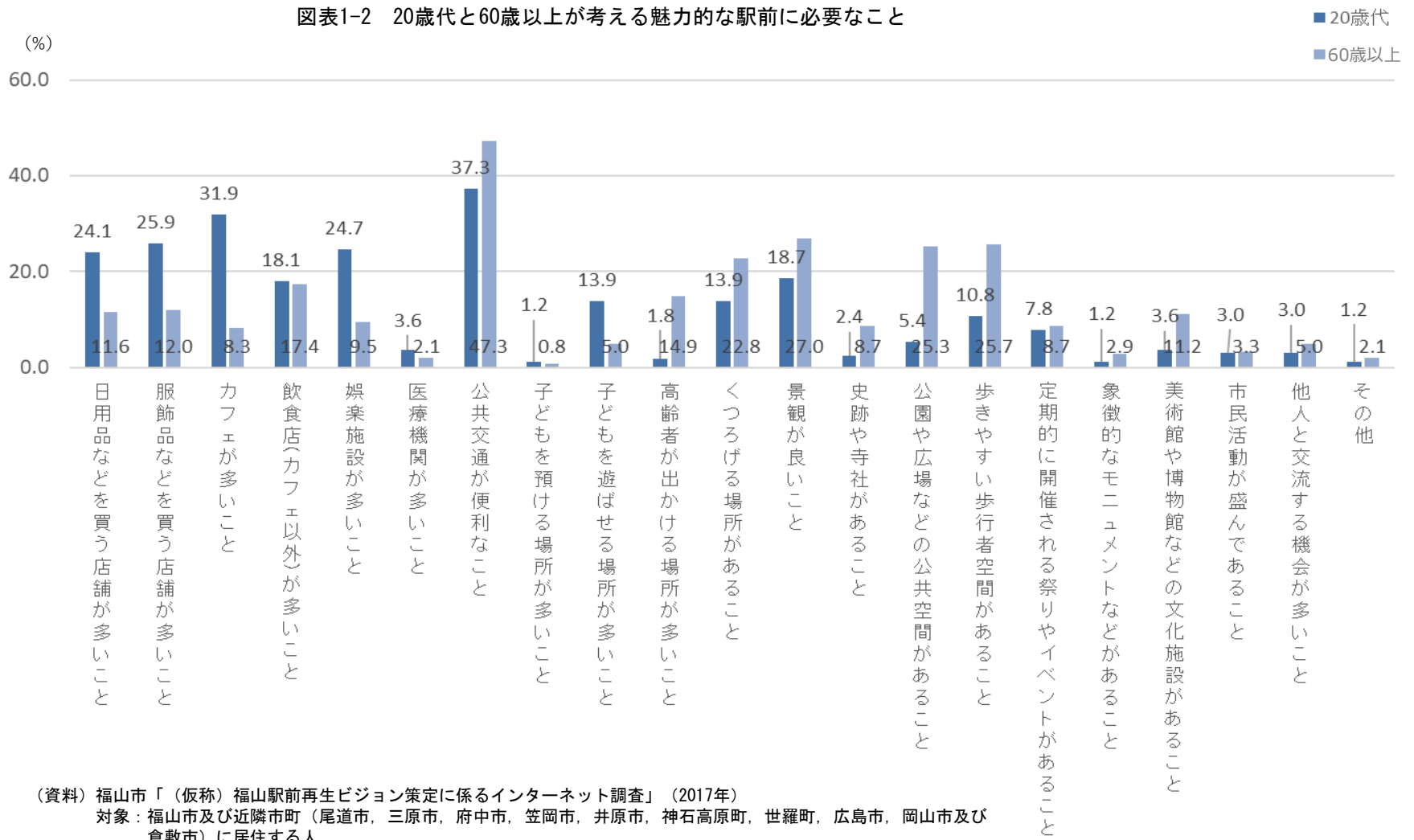
### 【中心市街地(福山駅周辺)の活性化】

- 全体として「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 60歳以上の「不満」+「やや不満」の割合は増加した一方、20歳代の「満足」+「やや満足」の割合は大幅に増加した。
- 全体として満足度が低下しているのは、駅周辺の再生に関心を持つ人が増え、期待が高まっていることが影響している可能性がある。
- 旧キャスパの再開発や福山駅北口広場の再整備、中央公園Park-PFIの実施、リノベーションスクールによる事業化など、具体的な動きが見え始めたところであり、満足度の向上につながるのは、工事の完了など一定の時間が必要であると考えられる。
- 目に見える動きはこれから本格化するため、駅周辺がどのように変わっていくのかが市民に届くよう、取組の状況や今後のスケジュール等について民間の動きも含めて分かりやすく発信したり、市民を巻き込んだ取組にする必要がある。
- 「(仮称)福山駅前再生ビジョン策定に係るインターネット調査」の結果から、世代によって駅周辺に求める機能は違い、例えば、20歳代は「カフェが多いこと」や「服飾品などを買う店舗が多いこと」等のにぎわい面を、60歳以上は「公共交通が便利なこと」や「景観が良いこと」等の環境面を重要視している。

図表1-1  
中心市街地(福山駅周辺)の活性化  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比(%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	0.7	-2.1	6.4	-5.2
男性	-1.3	-1.0	6.1	-3.8
女性	2.1	-3.4	6.7	-5.4
20歳代	15.3	-7.5	-5.9	-2.0
30歳代	0.3	2.7	-0.9	-2.1
40歳代	3.1	-1.3	0.1	-1.8
50歳代	2.7	-5.2	4.8	-2.2
60歳代	-0.2	-8.4	11.8	-3.2
70歳代	-4.8	0.3	14.6	-10.1
80歳以上	-4.2	8.9	10.5	-15.2
中央	3.0	-3.3	5.6	-5.3
東部	-7.0	1.2	9.6	-3.7
西部	6.8	-10.0	1.9	1.2
南部	-4.5	-5.0	15.2	-5.7
北部	2.0	0.5	3.3	-5.8
北東部	6.1	-2.6	2.3	-5.8

図表1-2 20歳代と60歳以上が考える魅力的な駅前に必要なこと



(資料) 福山市「(仮称)福山駅前再生ビジョン策定に係るインターネット調査」(2017年)  
 対象: 福山市及び近隣市町(尾道市, 三原市, 府中市, 笠岡市, 井原市, 神石高原町, 世羅町, 広島市, 岡山市及び倉敷市)に居住する人

## 検討の 視点

### 【良質な民間投資による、都市機能の集積やにぎわいの創出が必要】

- 福山駅前の再生に向けたターゲット(働く人, 住む人, 観る人)に合ったコンテンツが, 官民連携で生み出される環境をどのように整えていくか。
- 福山駅周辺のエリア価値を高めるため, 福山駅周辺デザイン計画で定めた戦略(新たな産業の創出, 官民の連携, 地域インフォメーションデザインの構築など)をどのように実現していくか。

# 1 中心市街地が活性化し、魅力あふれるまち

## ② 情報発信の充実

### 【市の広報やホームページなどによる情報提供の充実】

- 全ての年齢、性別、地域で「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加している。
- 「福山市情報発信に係るインターネット調査」によると、20歳代～40歳代が普段、情報収集している媒体は、他の年代に比べて「Facebook」等のSNSが多いが、市政情報をSNSから収集している人の割合は少ない。
- 2017年度に情報発信戦略基本方針を策定し、発信媒体や機会を増やすなど、情報発信力を強化しているが、満足度の向上につながっていない。

### 【市の知名度向上につながる情報発信力】

- 全体として「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 2017年と2019年のインターネット調査(対象:首都圏)によると、首都圏において、福山市の施策や地域資源を知らない人の割合は、70.0%から57.8%に減少しており、市外での福山市の認知度が高まったと言える。
- 福山アンバサダー(総フォロワー数:182万)による、全国への魅力発信の取組が、情報発信力の強化に結びついている可能性がある。
- 認知度が向上しているにもかかわらず、満足度が低下しているのは、市外への知名度向上の取組を市民が知らないことが要因の一つと考えられる。

図表1-3

市の広報やホームページなどによる情報提供の充実  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-12.2	13.7	0.1	-1.6
男性	-11.6	14.3	-1.0	-1.6
女性	-12.3	12.7	0.6	-1.0
20歳代	-15.2	24.7	-9.5	0.0
30歳代	-16.3	22.8	-4.8	-1.6
40歳代	-15.2	20.0	-2.0	-2.8
50歳代	-8.5	9.3	1.0	-1.7
60歳代	-19.3	11.9	6.7	0.7
70歳代	-6.5	7.9	-0.1	-1.4
80歳以上	-1.4	5.7	0.2	-4.6
中央	-9.8	15.0	-4.4	-0.9
東部	-13.5	9.0	5.8	-1.3
西部	-11.0	8.3	3.4	-0.6
南部	-11.9	9.1	2.8	-0.0
北部	-12.7	16.6	-1.9	-2.0
北東部	-17.9	13.7	5.2	-1.1

図表1-4

市の知名度の向上につながる情報発信力  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-3.1	4.8	2.8	-4.5
男性	-2.0	3.6	2.2	-3.7
女性	-3.8	4.8	3.3	-4.3
20歳代	-12.5	15.9	-4.4	1.0
30歳代	-8.4	15.4	-3.8	-3.1
40歳代	-1.6	9.8	-4.4	-3.8
50歳代	4.8	-7.3	4.0	-1.5
60歳代	-1.4	-2.7	4.9	-0.8
70歳代	-7.1	9.0	8.0	-10.0
80歳以上	2.4	1.5	9.6	-13.3
中央	-1.8	6.1	0.1	-4.4
東部	-5.4	2.5	6.4	-3.5
西部	2.3	2.3	-5.8	1.2
南部	-6.2	0.7	8.6	-3.2
北部	-1.7	3.5	3.8	-5.7
北東部	-6.9	7.5	3.6	-4.1



図表1-5 普段、様々な情報入手する媒体（複数回答可）

		n	テレビ	新聞	雑誌	ラジオ	ウェブサイトのニュース、SNS、配信サイト	各企業のウェブページ	LINE	Facebook	Twitter	Instagram	その他
全体		500 100.0	404 80.8	244 48.8	88 17.6	89 17.8	273 54.6	53 10.6	131 26.2	60 12.0	79 15.8	79 15.8	34 6.8
年代	20代	82 100.0	59 72.0	15 18.3	11 13.4	8 9.8	43 52.4	4 4.9	44 53.7	12 14.6	28 34.1	36 43.9	9 11.0
	30代	84 100.0	64 76.2	30 35.7	22 26.2	13 15.5	49 58.3	13 15.5	28 33.3	14 16.7	15 17.9	17 20.2	7 8.3
	40代	84 100.0	66 78.6	40 47.6	12 14.3	12 14.3	51 60.7	9 10.7	20 23.8	15 17.9	17 20.2	11 13.1	0 0.0
	50代	102 100.0	84 82.4	52 51.0	19 18.6	22 21.6	58 56.9	12 11.8	22 21.6	8 7.8	10 9.8	9 8.8	9 8.8
	60代	94 100.0	81 86.2	61 64.9	14 14.9	21 22.3	51 54.3	10 10.6	10 10.6	7 7.4	7 7.4	4 4.3	3 3.2
	70代	54 100.0	50 92.6	46 85.2	10 18.5	13 24.1	21 38.9	5 9.3	7 13.0	4 7.4	2 3.7	2 3.7	6 11.1

図表1-6 普段、福山市の市政情報を何から得ているか（複数回答可）

		n	広報紙「ふくやま」	福山市ホームページ	福山市メール配信	福山市Facebook	福山市Twitter	福山市Instagram	市の広報「ふくやま」	広報ラジオ「アツ」	広域（JR福山駅、銀行など）	デジタル（スマートフォン、タブレット）	商業施設の市庁情報（テナジー）	新聞	テレビ（ニュースなど）	ラジオ（ニュースなど）	料市政情の閲覧	その他	市政情報入手してない
全体		500 100.0	291 58.2	129 25.8	39 7.8	13 2.6	18 3.6	6 1.2	35 7.0	5 1.0	20 4.0	25 5.0	124 24.8	141 28.2	40 8.0	2 0.4	21 4.2	95 19.0	
年代	20代	82 100.0	24 29.3	18 22.0	3 3.7	4 4.9	2 2.4	2 2.4	1 1.2	0 0.0	8 9.8	6 7.3	11 13.4	22 26.8	6 7.3	0 0.0	8 9.8	19 23.2	
	30代	84 100.0	40 47.6	20 23.8	10 11.9	4 4.8	4 4.8	2 2.4	10 11.9	1 1.2	3 3.6	6 7.1	16 19.0	20 23.8	6 7.1	0 0.0	4 4.8	21 25.0	
	40代	84 100.0	49 58.3	28 33.3	12 14.3	3 3.6	5 6.0	1 1.2	8 9.5	2 2.4	4 4.8	7 8.3	21 25.0	18 21.4	6 7.1	0 0.0	1 1.2	18 21.4	
	50代	102 100.0	62 60.8	26 25.5	6 5.9	2 2.0	2 2.0	1 1.0	8 7.8	1 1.0	4 3.9	5 4.9	20 19.6	29 28.4	9 8.8	0 0.0	5 4.9	19 18.6	
	60代	94 100.0	69 73.4	21 22.3	4 4.3	1 1.1	3 3.2	0 0.0	3 3.2	0 0.0	1 1.1	1 1.1	29 30.9	30 31.9	7 7.4	0 0.0	2 2.1	14 14.9	
	70代	54 100.0	47 87.0	16 29.6	4 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 9.3	1 1.9	0 0.0	0 0.0	27 50.0	22 40.7	6 11.1	2 3.7	1 1.9	4 7.4	

（資料）福山市「福山市情報発信に係るインターネット調査」（2019年） 対象：福山市に居住するの20歳～70歳

## 検討の視点

【対外的な知名度向上と市民への情報発信を通じたコミュニケーションの実現による、シビックプライドの醸成が必要】

- 市民満足度が低い理由を分析し、改めて情報発信媒体ごとにふさわしい戦略を構築する必要があるのではないか。
- 知名度向上のための市外への情報発信の取組について、市内に向けて情報発信する必要があるのではないか。

# 1 中心市街地が活性化し、魅力あふれるまち

## ③ 観光振興

### 【観光の振興】

- 20歳代と80歳以上で「満足」+「やや満足」の割合が増加している。
- 「福山市で誇りに思うこと」(市民意識調査)に対して、80歳以上は、「歴史・文化資源(福山城, 鞆の浦, 明王院など)」を誇りに感じている人が多く、2015年と2020年の結果を比べて、数値が増加した年齢層でもある。なお、20歳代についても、30歳代～50歳代と比べると誇りに感じている人が多く、2015年と2020年の結果を比べても、数値の伸びが大きい。
- 上記要因は、三大リーディング観光資源として、「鞆の浦」「福山城」「ばら」を2017年に設定し、動画などを使った観光プロモーションを強化してきたこと、2017年～2018年にかけての鞆の浦の3冠(日本遺産・重要伝統的建造物群保存地区・ユネスコ「世界の記憶」)獲得、2018年からの福山城築城400年に向けた取組の充実など、観光資源の磨き上げにより、市民の誇りの醸成につながったものと考えられる。
- なお、ばらについては、世界バラ会議福山大会の誘致が実現したが、誇りに思う人の割合は減少している。
- 地域別に見ると、南部と北部で「満足」+「やや満足」の割合が増加し、北東部で「不満」+「やや不満」の割合が減少した。これらの地域は、住民ニーズに合った取組(鞆のまちづくり, 廉塾・神辺本陣の保存整備, 二子塚古墳の整備など)により、満足度の向上につながったと考えられる。
- 市民の満足度は微増しているものの、2015年から2019年にかけて、総観光客数が減少しており、また、観光消費額についてほぼ横ばいとなっている。

図表1-7  
観光の振興  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	1.3	4.9	-1.1	-5.0
男性	0.3	6.3	-3.9	-2.4
女性	2.8	3.0	0.4	-6.1
20歳代	6.4	-2.0	-2.5	-1.9
30歳代	-0.6	8.8	-7.1	-1.0
40歳代	-1.2	8.7	-4.7	-2.8
50歳代	3.7	3.7	-5.9	-1.6
60歳代	-0.9	3.1	0.4	-2.5
70歳代	1.6	5.5	4.3	1.4
80歳以上	7.5	3.4	2.6	3.5
中央	0.2	7.6	-2.1	-5.7
東部	-0.9	6.1	-1.8	-3.5
西部	-0.5	-8.0	6.1	2.3
南部	6.3	2.2	-3.0	-5.7
北部	6.4	1.9	-1.3	-6.9
北東部	3.4	7.1	-6.5	-3.9

図表1-8 福山市で誇りに思うこと  
歴史・文化資源(福山城, 鞆の浦, 明王院など)を回答した人の年齢別の割合  
(2015年は「史跡・観光資源」を回答した人の割合)

	2020年	2015年	差
全体	34.0%	19.0%	15.0
20歳代	31.0%	18.6%	12.4
30歳代	25.0%	23.7%	1.3
40歳代	25.1%	21.8%	3.3
50歳代	27.7%	23.1%	4.6
60歳代	35.5%	15.6%	19.9
70歳代	44.2%	14.2%	30.0
80歳以上	46.4%	17.3%	29.1
中央	34.7%	21.5%	13.2
東部	32.2%	14.3%	17.9
西部	29.8%	11.4%	18.4
南部	40.9%	22.7%	18.2
北部	32.8%	18.6%	14.2
北東部	35.8%	18.9%	16.9

(資料) 福山市「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」  
(2015年, 2020年)

図表1-9 福山市で誇りに思うこと

街中に咲き誇るばらを回答した人の年齢別の割合

(2015年は「ばらのまちづくり」を回答した人の割合)

	2020年	2015年	差
全体	35.1%	43.9%	-8.8
20歳代	32.0%	54.9%	-22.9
30歳代	23.0%	37.9%	-14.9
40歳代	33.7%	44.7%	-11.0
50歳代	38.2%	45.0%	-6.8
60歳代	35.9%	44.1%	-8.2
70歳代	39.5%	41.2%	-1.7
80歳以上	38.4%	50.0%	-11.6
中央	37.8%	45.8%	-8.0
東部	33.3%	43.9%	-10.6
西部	27.7%	50.4%	-22.7
南部	38.6%	39.1%	-0.5
北部	35.5%	41.2%	-5.7
北東部	29.2%	41.6%	-12.4

(資料) 福山市「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」  
(2015年, 2020年)

図表1-10 総観光客数の増加率 (2015年と2019年の比較)

	2019年(※)	2015年	差	増減率
福山市	6,296千人	7,269千人	-973千人	-13.4%
三原市	4,162千人	3,546千人	616千人	17.4%
尾道市	6,826千人	6,747千人	79千人	1.2%
府中市	1,217千人	819千人	398千人	48.6%
世羅町	2,293千人	2,272千人	21千人	0.9%
神石高原町	702千人	742千人	-40千人	-5.4%
広島市	16,212千人	14,070千人	2,142千人	15.2%
広島県	67,194千人	66,176千人	1,018千人	1.5%

(※) 2019年から算出方法を広島県の示すガイドラインに沿って算出しているため  
単純比較できない

(資料) 広島県「広島県観光客数の動向」

図表1-11 福山市の観光消費額の推移

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
観光消費額 (単位: 百万円)	32,140	32,838	32,644	32,301	32,112
1人当たり消費額 (単位: 円)	4,422	4,503	4,503	4,510	4,452

(※) 2019年から算出方法を広島県の示すガイドラインに沿って算出しているため  
単純比較できない

(資料) 広島県「広島県観光客数の動向」

## 検討の 視点

【選ばれる観光地となり、地域経済の活性化につなげる必要がある】

- 市民の観光振興の満足度の高まりを、地域の観光資源の磨き上げなどにつなげ、観光客数の増加へ向けた誘致を進める必要があるのではないかと。
- 市内の民間事業者と連携したイベントや商品のブラッシュアップにより、観光客の満足度を上げ、市内経済の好循環につなげる取組が必要ではないかと。

## 2 子どもたちの笑顔が輝き、誰もが健康でいきいきと暮らせるまち

### ① 「福山ネウボラ」の充実

#### 【妊娠・出産・子育てに関する支援の充実】

- 子育て施策の中で、「満足度」が高い。  
(満足度:0.1758, 子育て施策平均満足度:0.0759)
- 30歳代の「満足」+「やや満足」の割合が特に高い。
- 本市の平均出産時年齢は、第1子について、父親31.7歳、母親29.6歳であり、30歳代は、出産から小学生までの子育て期間に当たる。2017年6月にネウボラ相談窓口「あのね」を開設しており、子育て支援の取組を強化しているイメージが一定程度定着しているものと考えられる。
- 「福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」の結果を見ると、「あのね」を知っていると回答した保護者は約7割、今後相談したいことができれば利用したいと考えている保護者も約7割で、認知度は高い。

図表2-1

子育て施策の満足度 (2020年調査結果)

項目	満足度
妊娠・出産・子育てに関する支援の充実	0.1758
仕事と家庭の両立支援の促進	-0.1384
保育施設など子どもを育てるための施設整備	0.0796
医療費助成などの子育てにかかる経済的負担の軽減	0.1867
子育て施策平均	0.0759

図表2-2

妊娠・出産・子育てに関する支援の充実  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	25.0	55.5	10.6	9.0
男性	23.0	59.8	10.9	6.3
女性	26.8	52.4	10.2	10.7
20歳代	22.0	63.0	12.0	3.0
30歳代	38.6	39.2	20.3	2.0
40歳代	29.4	49.7	18.2	2.7
50歳代	18.9	69.6	8.9	2.6
60歳代	22.7	61.4	9.0	6.9
70歳代	24.4	55.3	4.4	16.0
80歳以上	18.8	45.5	6.3	29.5
中央	26.5	55.3	9.8	8.4
東部	26.3	56.7	9.0	7.9
西部	26.6	50.0	14.9	8.5
南部	22.8	64.8	6.8	5.7
北部	23.3	54.1	12.4	10.3
北東部	17.9	55.7	16.0	10.4

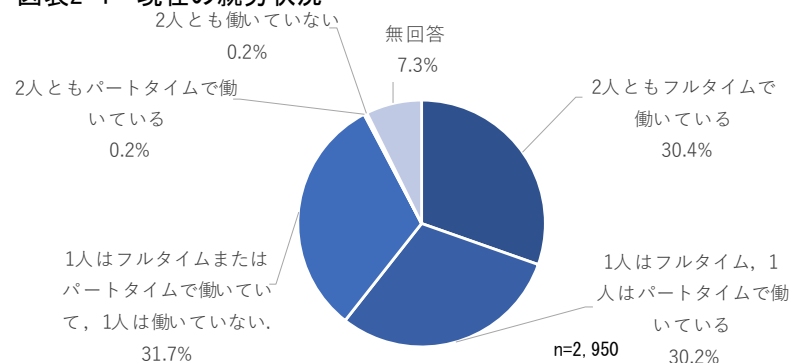
## 【仕事と家庭の両立支援の促進】

- 子育て施策の中で、「満足度」が低い。  
(満足度:-0.1384, 子育て施策平均満足度:0.0759)
- 子育てする家庭の多い30歳代で「不満」+「やや不満」の割合が高い。
- 「福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」の結果を見ると、就学前の子を持つ家庭の約6割が共働きにより仕事と子育ての両方を担っている状況がうかがえる。
- 育児休業や短時間勤務の利用者は増加しているが、そのほとんどが女性であり、母親が主に子育てを行っている割合が約半数を占めている。

図表2-3  
仕事と家庭の両立支援の促進  
2020年調査結果

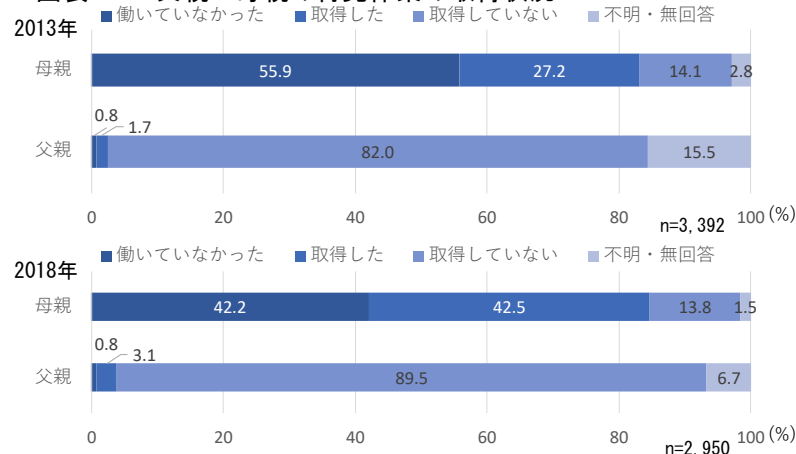
	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	11.6	59.5	20.0	9.0
男性	10.9	62.6	20.3	6.1
女性	12.2	57.4	19.5	11.0
20歳代	13.0	66.0	18.0	3.0
30歳代	12.2	43.9	40.6	3.4
40歳代	14.4	58.8	24.0	2.7
50歳代	11.0	69.1	17.3	2.6
60歳代	9.0	63.9	20.7	6.4
70歳代	12.0	58.2	14.1	15.6
80歳以上	10.7	52.7	7.2	29.5
中央	12.4	62.9	16.3	8.4
東部	11.0	62.6	17.7	8.7
西部	13.9	52.1	26.6	7.4
南部	11.3	58.0	23.9	6.8
北部	10.3	53.0	27.5	9.2
北東部	9.4	54.7	24.6	11.3

図表2-4 現在の就労状況



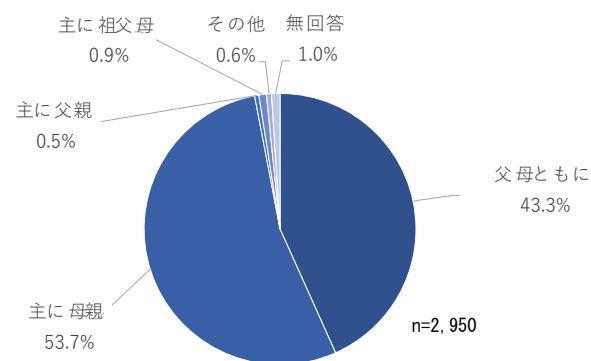
(資料) 福山市「福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)  
対象: 福山市に居住する就学前の児童を持つ保護者

図表2-5 父親・母親の育児休業の取得状況



(資料) 福山市「福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」  
(2013年・2018年)

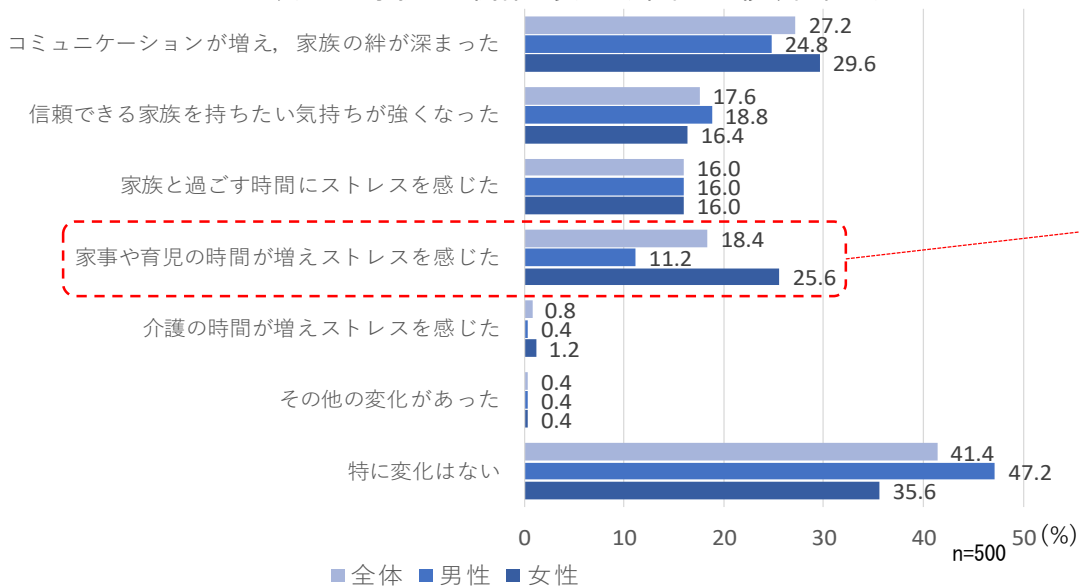
図表2-6 子育てを主に行っている方



(資料) 福山市「福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

- 「新型コロナウイルス感染症による住民の意識・行動変化に関するアンケート調査」の結果を見ると、コロナによって「家事や育児の時間が増えストレスを感じた」と答えた割合が女性の方が2倍以上高い。これを子どもや就業の有無で見ると、子育て専業主婦で特に高く、その次に、子育て共働き女性が高い。

図表2-7 家族との関係の変化（昨年比・複数回答可）



女性を、子どもや就業の有無等でグループ分けした場合

家事や育児の時間が増えストレスを感じた

1位：子育て専業主婦 62.5%  
2位：子育て共働き女性 41.7%  
3位：シングルマザー 22.2%

自粛期間中、子育て専業主婦のうち約6割がストレスを感じていた

(資料) 福山市「新型コロナウイルス感染症による住民の意識・行動変化に関するアンケート調査」(2020年)  
対象：備後圏域に居住する18歳～49歳

### 【保育施設など子どもを育てるための施設整備】

- 子育て施策の中での「満足度」は、平均的である。(満足度:0.0796, 子育て施策平均満足度:0.0759)
- 子どもの就学状況別で見ると、就学前の子どものいる人は、他の年代の子どものいる人と比べて「不満」+「やや不満」の割合が高い。
- 2015年との比較でも、子どものいる人全体では、「不満」+「やや不満」の割合が減っているものの、就学前の子どものいる人では、大きな変化がない。

図表2-8 保育施設など子どもを育てるための施設整備 2020年調査結果

2020年構成比 (%)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
子どもあり (~18歳)	34.7	40.9	24.4
就学前	35.3	26.5	38.2
小学生	39.1	40.2	20.7
中学生	39.7	48.3	12.1
高校生等	32.3	58.1	9.7

図表2-9 保育施設など子どもを育てるための施設整備 2020年調査結果-2015年調査結果

2020年構成比-2015年 構成比 (%ポイント)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
子どもあり (~18歳)	3.8	9.7	-13.5
就学前	1.1	2.6	-3.7
小学生	3.3	12.5	-15.8
中学生	15.4	6.9	-22.3
高校生等	1.8	17.8	-19.7

図表2-10 保育所の状況（2014年4月1日現在）

	保育所 (箇所)	人口1万人当 たり保育所 (箇所/万人)	定員 (人)	利用児童数 (人)	待機児童数 (人)
福山市	112	2.4	11,940	12,188	0
中核市平均	69	1.7	7,072	7,096	47
広島市	190	1.6	24,160	23,634	447
岡山市	119	1.7	13,637	14,297	0
倉敷市	91	1.9	10,530	10,684	28
広島県	616	2.1	62,889	59,216	447

(資料) 厚生労働省「都道府県・政令指定都市・中核市別 保育所待機児童数集約表」「保育所関連状況とりまとめ」、総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」

図表2-11 保育所の状況（2019年4月1日現在）

	保育所 (箇所)	人口1万人当 たり保育所 (箇所/万人)	定員 (人)	利用児童数 (人)	待機児童数 (人)
福山市	143	3.0	13,589	12,293	10
中核市平均	99	2.6	8,340	7,861	44
広島市	282	2.4	28,940	27,100	36
岡山市	174	2.5	17,261	16,860	353
倉敷市	125	2.6	11,964	11,278	143
広島県	795	2.8	72,054	63,736	128

(資料) 厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」、総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」

図表2-12

医療費助成などの子育てにかかる経済的負担の軽減  
2020年調査結果－2015年調査結果

2020年構成比－2015年 構成比（%ポイント）	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満
子どもあり（～18歳）	50.4	21.2	28.3
就学前	53.9	10.8	35.3
小学生	58.7	16.3	25.0
中学生	54.2	22.0	23.7
高校生等	42.9	41.3	15.9

- 人口1万人当たりの保育所の数は、中核市平均や広島市、倉敷市などの周辺都市と比較して多く、待機児童も0の継続が途切れたものの、2019年4月1日時点で10人と、中核市平均44人と比べ大幅に少ない。
- 「満足度」が高くないのは、医療費などの経済的負担と比べ他市との差を実感しにくいことが要因の一つと考えられる。

### 【医療費助成などの子育てにかかる経済的負担の軽減】

- 子育て施策の中で、「満足度」が高い。  
(満足度:0.1867, 子育て施策平均満足度:0.0759)
- 子どものいる人で見ると、「満足」+「やや満足」の割合が5割を超えている。「不満」+「やや不満」の割合は、子ども医療費助成の対象が拡大した小学生や中学生の子どもがいる人で低く、就学前の子どものいる人は高くなっている。

## 検討の 視点

### 【子育て世帯の精神的・身体的負担の軽減が必要】

- 仕事と家庭の両立に不安・不満を抱えている世帯を支援するため、企業の働き方改革を促進させるとともに、子育て環境を整える取組が必要ではないか。また、男性の家事・育児参加を進めるため、企業と家庭の両面からの対策が必要ではないか。
- 子育てに関する悩みを抱えた時に、「あのね」が中心となって寄り添えるよう、地域の子育て支援機能との連携の強化が必要ではないか。
- 本市の特色であった待機児童“0”に向けた対策を打つ必要があるのではないか。

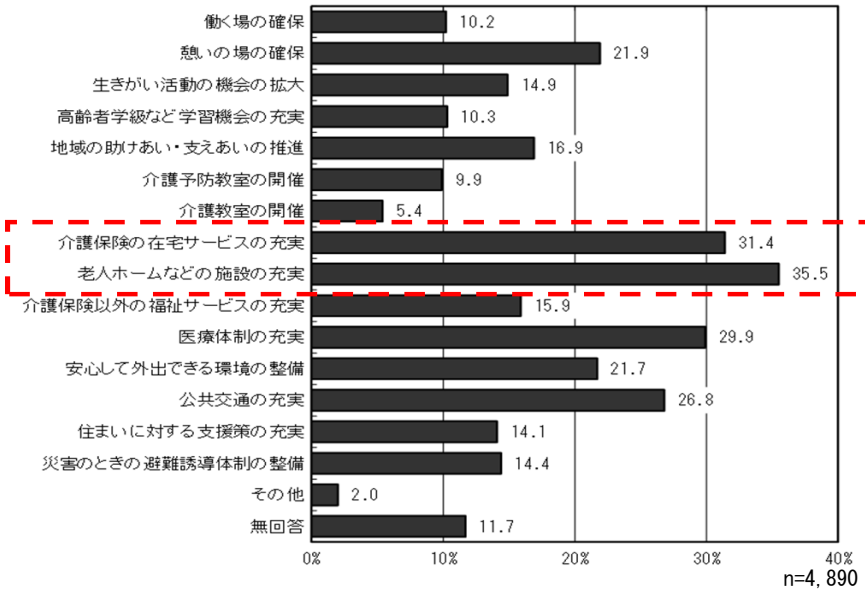
## 2 子どもたちの笑顔が輝き、誰もが健康でいきいきと暮らせるまち

### ② 高齢者支援

#### 【高齢者のための施設整備やサービスの充実】

- 全体として「満足」+「やや満足」の割合が減少している。
- 2015年調査と比較して、60歳代と80歳以上で「満足」+「やや満足」の割合が減少し、特に80歳以上では「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 「福山市高齢者の暮らしについての実態調査」において、福山市の高齢者施策で求めているものとして「老人ホームなどの施設の充実」や「介護保険の在宅サービスの充実」などが挙がっている。

図表2-15 今後、特に力を入れてほしいと思われる高齢者に関わる施策



(資料) 福山市「福山市高齢者の暮らしについての実態調査（介護予防・日常生活圏ニーズ調査）」(2016年)  
対象：要介護1～5の認定を受けていない市内に居住する65歳以上の高齢者

図表2-13 高齢者のための施設整備やサービスの充実  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-8.3	10.9	-2.1	-0.4
男性	-6.5	10.0	-4.2	0.5
女性	-9.6	11.0	-0.8	-0.6
20歳代	-7.5	13.1	-5.7	0.0
30歳代	-11.9	17.8	-4.5	-1.3
40歳代	-7.7	7.8	2.2	-2.3
50歳代	-6.4	16.0	-8.5	-1.2
60歳代	-11.5	8.0	0.5	3.0
70歳代	-3.0	5.4	-3.2	0.8
80歳以上	-15.6	13.7	8.7	-6.9
中央	-9.2	12.3	-3.1	-0.1
東部	-10.7	17.6	-5.7	-1.4
西部	-1.9	-2.7	1.6	3.1
南部	-8.0	2.8	6.1	-1.0
北部	-9.6	9.2	0.6	-0.2
北東部	-5.3	8.1	-2.5	-0.2

図表2-14 高齢者の健康づくりや社会参加の促進  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	19.8	63.5	11.8	4.9
男性	17.6	66.9	12.1	3.4
女性	22.1	60.4	11.8	5.9
20歳代	22.0	73.0	3.0	2.0
30歳代	16.2	73.0	8.1	2.7
40歳代	13.9	71.1	12.8	2.1
50歳代	18.8	68.6	11.5	1.0
60歳代	15.4	67.0	12.8	4.7
70歳代	25.8	52.7	14.2	7.3
80歳以上	29.4	40.2	15.2	15.2
中央	19.2	66.7	10.2	3.9
東部	19.6	64.2	12.6	3.5
西部	20.2	59.6	14.9	5.3
南部	23.9	55.7	15.9	4.5
北部	16.8	62.2	13.5	7.6
北東部	26.4	58.5	9.4	5.7



- 老人ホームなどの施設については、ニーズを踏まえて計画的に整備しているが、現状に満足が得られていないのは、高齢化の進行に伴い、今後介護ニーズの増加が見込まれていることが背景にあると考えられる。

図表2-16  
高齢者施策の満足度（2020年調査結果）

項目	満足度
高齢者のための施設整備やサービスの充実	0.0025
高齢者の健康づくりや社会参加の促進	0.0942
高齢者の移動や買い物などの生活支援の充実	-0.3189
高齢者施策平均	-0.0741

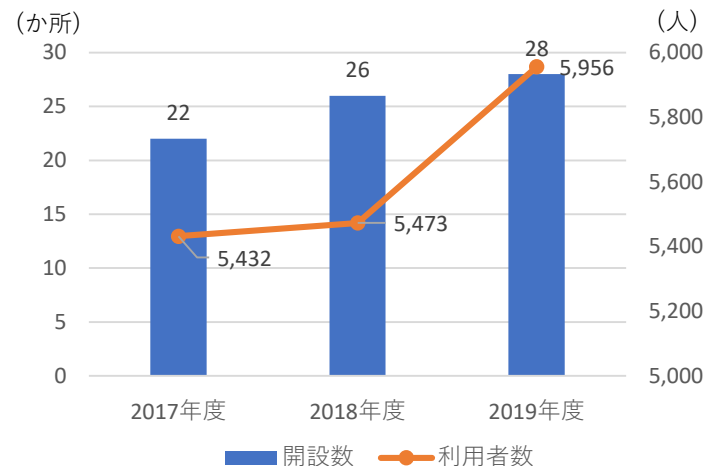
### 【高齢者の健康づくりや社会参加の促進】

- 高齢者施策の中で、満足度は高い。  
（満足度:0.0942, 高齢者施策平均満足度:-0.0741）
- 70歳以上で「満足」+「やや満足」の割合が高い。
- 認知症カフェ開設支援やいきいき百歳体操の推進などにより、高齢者の健康づくりや社会参加、気軽に相談できる居場所づくりにつながったことで、日々健康に過ごせており、70歳以上からの「満足」+「やや満足」の割合が増加したと考えられる。
- 高齢者施策の中で、満足度が高い一方で、「どちらともいえない」の割合も高い。健康づくり等の取組が市民全体に浸透していないことが要因の一つと考えられる。

### 【高齢者の移動や買い物などの生活支援の充実】

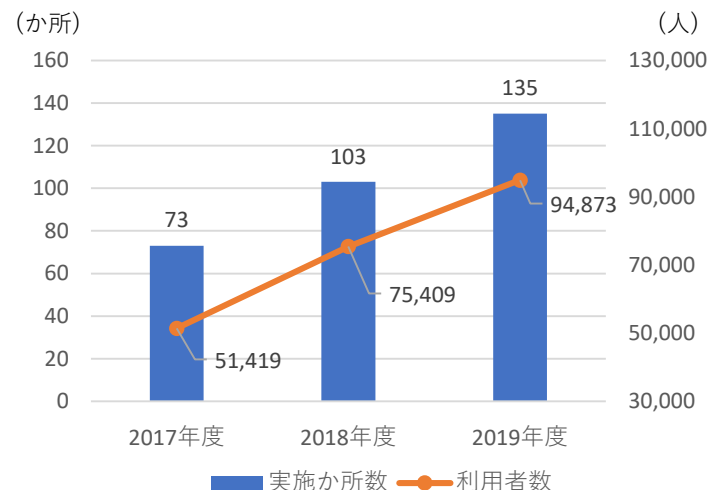
- 高齢者施策の中で、満足度は低い。  
（満足度:-0.3189 高齢者施策平均満足度:-0.0741）

図表2-17 認知症カフェ開設数・利用者数



(資料) 福山市資料

図表2-18 いきいき百歳体操実施か所数・利用者数



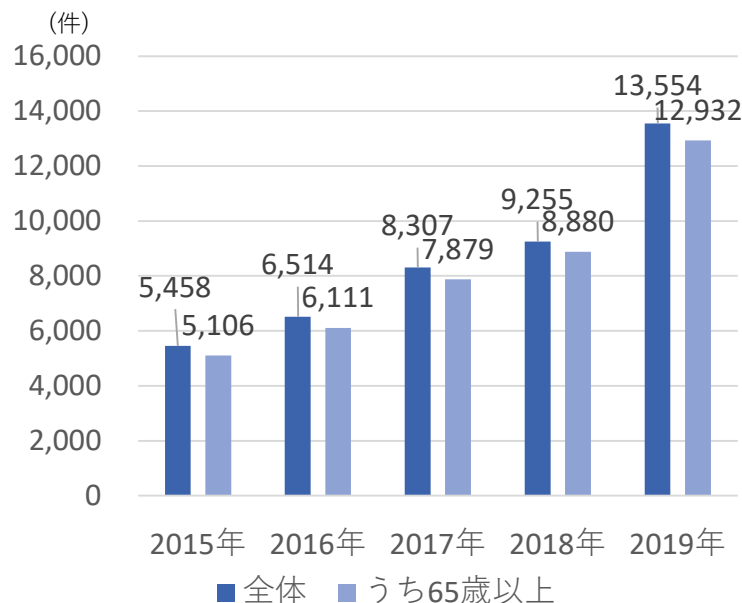
(資料) 福山市資料

- 50歳以上で「不満」+「やや不満」の割合が高い。
- 免許を持たない高齢者や高齢者のみの世帯の増加，公共交通機関の系統数減少等により，移動や買い物などに影響が出ていると考えられる。

図表2-19  
高齢者の移動や買い物などの生活支援の充実  
2020年調査結果

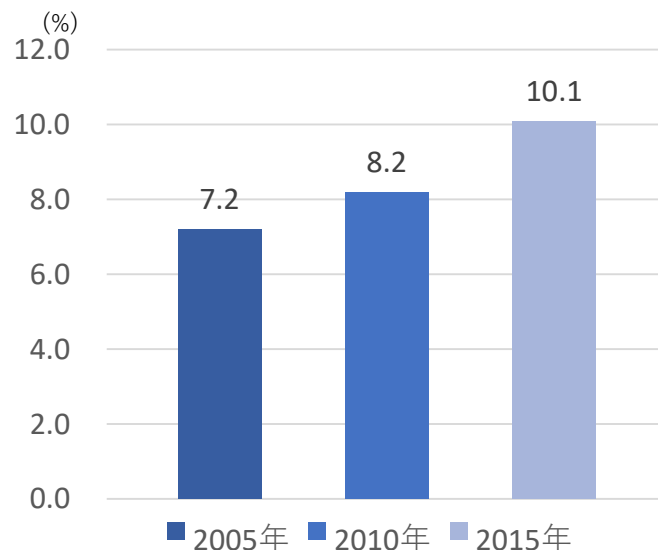
	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	9.8	53.3	31.8	5.1
男性	11.3	50.4	34.5	3.8
女性	9.0	55.5	29.7	5.7
20歳代	18.0	62.0	18.0	2.0
30歳代	8.2	64.9	25.0	2.0
40歳代	4.8	64.7	28.3	2.1
50歳代	7.9	53.4	37.7	1.0
60歳代	9.0	48.5	38.2	4.3
70歳代	12.4	46.9	31.6	9.1
80歳以上	12.6	37.5	35.7	14.3
中央	10.0	58.4	26.5	5.1
東部	10.7	50.8	35.0	3.5
西部	6.4	56.4	31.9	5.3
南部	12.5	39.8	43.1	4.5
北部	9.1	50.3	35.2	5.4
北東部	9.4	50.0	35.0	5.7

図表2-20 広島県内の運転免許申請取消（自主返納）件数の推移



(資料) 警察庁「運転免許統計」

図表2-21 一般世帯に占める高齢者単独世帯の割合



(資料) 総務省「国勢調査」

## 検討の視点

### 【誰もが健康で活躍できる環境づくりが必要】

- 健康づくり等の取組を市民全体に浸透させるための周知・啓発や参加につながる仕組みづくりが必要ではないか。
- 人生100年時代を迎え，元気な高齢者の増加などに伴い，今後ますます多様化するニーズに対応できる必要な施策や体制の議論が必要ではないか。
- 免許を持たない高齢者の増加や公共交通機関の系統数減少などにより移動手段を持たない高齢者が増加している課題に対して，多様な移動手段(おでかけ支援など)をどのように確保していくのか。

## 2 子どもたちの笑顔が輝き、誰もが健康でいきいきと暮らせるまち

### ③ 障がい者支援

#### 【障がい者のための施設整備やサービスの充実】

- 2015年と比較して、全体的に「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加している。
- 施設整備については、障がい児保育を実施する保育所数や保育所における障がい児の受入人数が中核市の中でも充実している。また、県内で初めての手話言語条例の制定など、障がい者にやさしいまちづくりを行っているが、そうした取組が市民全体に浸透していないことも満足度が低い要因の一つと考えられる。

図表2-22  
障がい者のための施設整備やサービスの充実  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-9.3	10.1	-0.2	-0.6
男性	-7.6	10.0	-2.0	-0.3
女性	-10.7	10.4	0.1	0.3
20歳代	-5.6	6.3	-1.7	1.0
30歳代	-4.9	4.1	3.5	-2.5
40歳代	-11.5	14.7	-2.4	-0.7
50歳代	-9.9	13.6	-2.0	-1.6
60歳代	-12.5	11.2	0.0	1.1
70歳代	-10.5	11.1	-3.6	2.8
80歳以上	-3.9	6.1	7.8	-9.9
中央	-7.1	12.0	-4.0	-0.9
東部	-15.1	17.1	-1.8	-0.2
西部	-9.2	3.7	4.1	1.2
南部	-9.3	-1.3	14.3	-3.7
北部	-10.2	5.5	2.8	1.8
北東部	-8.6	8.1	-0.4	0.7

図表2-23 障がい児保育を実施する保育所数／保育所での障がい児の受入人数

	障がい児保育を実施している 保育所数／保育所数（%） ※（）内は中核市順位		保育所での障がい児の受入 人数（人） ※（）内は中核市順位	
	2014年度末	2017年度末	2014年度末	2017年度末
福山市	100.0 (1)	100.0 (1)	493 (1)	484 (2)
中核市平均	58.41	51.09	144	164

（資料）「中核市行政水準調査」

### 検討の 視点

#### 【障がい者が活躍し、共生している社会の実現が必要】

- 障がい者が地域で安心して生活するためには、どのような支援を充実していく必要があるのか（例：相談支援体制の充実、障がい福祉サービス等の質の向上、地域生活支援拠点等の機能の充実など）。
- 障がい者との共生社会に向けて、どのように取り組んでいくのか（例：障がいへの理解など）。

## 2 子どもたちの笑顔が輝き、誰もが健康でいきいきと暮らせるまち

### ④ 医療サービスの充実

#### 【病院などの整備や保健・医療サービスの充実】

- 60歳代と80歳以上で「満足」+「やや満足」の割合が他の年代と比べて減少している。
- この要因としては、全国的な傾向ではあるが60歳以上で受診回数が多くなるとともに、1人当たり窓口負担額も高くなることが影響していると考えられる(70歳代では窓口負担割合が減るため、負担額が減少)。なお、一人当たりの医療費は、2017年度と2012年度を比較すると増加しているため、受診回数又は窓口負担額が増えていると考えられる。
- 就学前の子どもがいる人や今後子どもを予定している人に着目すると、「満足」+「やや満足」の割合が全体(30.3%)と比較して高い。
- 福山・府中医療圏の産科医師・小児科医師数は、厚生労働省が設定する医師偏在指標によると少数ではあるが、福山市民病院の小児科及び産婦人科の患者数は年々増加しており(小児科:6,862人→14,292人,産婦人科:5,843人→7,755人,いずれも2015年度から2018年度の比較),市民の医療ニーズに対応できていることが影響している可能性がある。

図表2-24

病院などの整備や保健・医療サービスの充実  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比(%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いけない	不満+ やや不満	無回答
全体	14.1	12.3	1.9	0.0
男性	13.1	11.7	1.3	0.2
女性	14.4	12.1	1.8	0.5
20歳代	7.2	11.8	5.7	1.0
30歳代	0.8	5.4	4.7	1.4
40歳代	19.6	19.0	1.8	1.3
50歳代	16.0	14.1	3.0	1.2
60歳代	21.3	11.7	8.2	1.5
70歳代	9.9	8.2	0.9	0.7
80歳以上	20.9	20.2	2.7	2.0
中央	11.6	13.1	0.1	1.4
東部	16.0	17.5	2.0	0.6
西部	16.6	8.8	4.2	3.7
南部	15.2	5.4	8.8	0.9
北部	11.7	7.9	2.5	1.3
北東部	24.7	16.7	8.0	0.1

図表2-25

病院などの整備や保健・医療サービスの充実  
2020年調査結果

	2020年構成比(%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いけない	不満+ やや不満	無回答
全体	30.3	45.0	20.6	4.1
男性	31.2	44.1	21.5	3.3
女性	30.2	45.5	19.8	4.6
20歳代	35.0	53.0	10.0	2.0
30歳代	32.4	46.6	19.0	2.0
40歳代	19.7	53.5	24.6	2.1
50歳代	22.5	50.8	26.1	0.5
60歳代	26.6	45.1	24.9	3.4
70歳代	42.5	34.2	17.5	5.8
80歳以上	33.9	37.5	15.2	13.4
中央	32.0	46.1	19.4	2.5
東部	32.3	44.1	19.7	3.9
西部	19.2	51.1	24.5	5.3
南部	28.4	40.9	26.1	4.5
北部	31.3	42.7	21.1	4.9
北東部	26.4	46.2	21.7	5.7

- 2020年度の調査結果を地域別に見ると、中央、東部、北部で「満足」+「やや満足」の割合が高い。これら地域には急性期に対応できる基幹病院として「福山市民病院」「福山医療センター」「中国中央病院」「日本鋼管福山病院」があり、住民に安心感を与えていることが影響している可能性がある。
- 特に、福山市民病院は病床数及び医師数や救急搬送の受入件数が、備後圏域内の他の病院と比べて多いことで、住民に安心感を与えている可能性がある。
- 福山市の看護師・准看護師数は中核市で比較しても少なく、2014年と2017年を比較しても減少している。安心・安全な医療提供体制を確保するためには、看護師の確保が必要である。

図表2-28 看護師・准看護師の状況

	2014年10月		2017年10月	
	看護師・准看護師数(人)	人口10万人当たり看護師等数(人)	看護師・准看護師数(人)	人口10万人当たり看護師等数(人)
福山市	3,479	753	3,011	649
中核市平均	3,458	858	3,432	874
広島市	9,100	769	9,417	785
岡山市	7,069	991	7,320	1,015
倉敷市	4,793	1,003	4,925	1,032
広島県	23,174	816	23,053	815

(資料) 厚生労働省「医療施設(静態・動態)調査・病院報告」

## 検討の視点

### 【安心・安全な医療提供体制の確保が必要】

- 人口減少対策などの都市戦略との連携を図りながら、安心・安全な医療提供体制を確保するための医師や看護師の確保に向けて、県や大学に更なる働きかけを行う必要があるのではないかと。
- 超高齢化社会を踏まえ、看護職員を始めとしたコメディカルの状況を把握し、これからの需要と供給を踏まえる中で、課題を整理する必要があるのではないかと。
- 福山市民病院は備後圏域及び福山・府中医療圏の拠点病院として、今後どのような役割を担っていく必要があるのか。

図表2-26

病院などの整備や保健・医療サービスの充実  
(就学前の子どものいる人) 2020年調査結果

2020年構成比(%)	満足+やや満足	どちらともいえない	不満+やや不満
全体	32.4	47.1	20.6
20歳代	31.3	62.5	6.3
30歳代	36.4	42.4	21.2
40歳代	26.7	46.7	26.7
50歳代	0.0	50.0	50.0

図表2-27

病院などの整備や保健・医療サービスの充実  
(今後子どもを予定している人) 2020年調査結果

2020年構成比(%)	満足+やや満足	どちらともいえない	不満+やや不満
全体	30.5	57.3	12.2
20歳代	24.3	64.9	10.8
30歳代	36.4	51.5	12.1
40歳代	28.6	57.1	14.3
50歳代	33.3	33.3	33.3
80歳代以上	50.0	50.0	0.0

### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

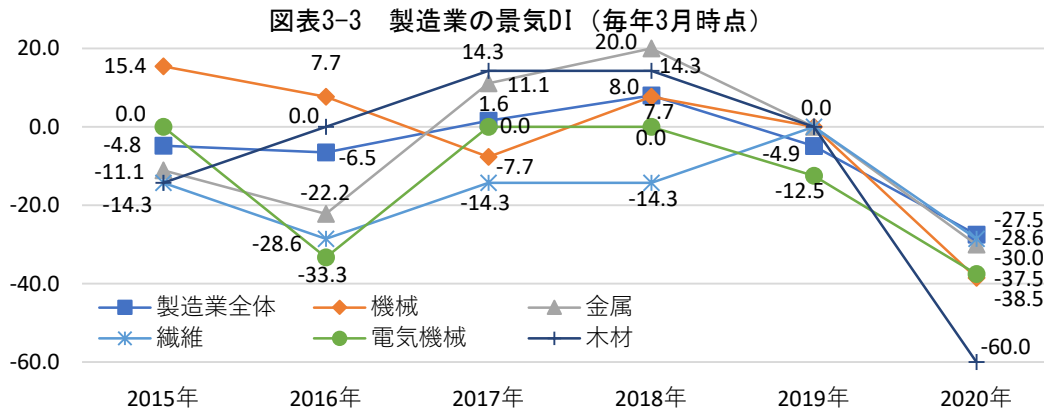
#### ① 地域経済を支える産業の活性化

##### 【繊維、木工、機械金属などの地場産業の振興】

- 2020年調査の結果で「どちらともいえない」の割合が68.5%と高い。  
(全項目平均:56.3%)
- 20歳代・40歳代・50歳代で「満足」+「やや満足」の割合が増加し、  
20歳代～40歳代で「不満」+「やや不満」の割合が減少している。
- 50歳代以下では、デニムプロジェクトによる認知度向上の取組が影  
響している可能性がある。

##### 【鉄鋼業などの基幹産業の振興と新たな基幹産業の育成・誘致】

- 2020年調査の結果で「どちらともいえない」の割合が65.8%と高い。
- 20歳代・40歳代で「満足」+「やや満足」の割合が増加している。一  
方で30歳代～50歳代・70歳代については、「不満」+「やや不満」の  
割合が増加している。
- 「どちらともいえない」と回答した割合が高いのは、市民にとって直接  
的な接点のある行政サービスではないため、内容がよくわからなかつ  
たことや、新たに大企業の誘致などの分かりやすい成果がなかったこ  
とが要因の一つと考えられる。
- 製造業の景気DIは、2015年からほぼ横ばいだが、2020年は新型コ  
ロナウイルスの影響で低下している。



(資料) 福山商工会議所「景気観測調査報告」

図表3-1

繊維、木工、機械金属などの地場産業の振興  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-0.0	1.6	-0.7	-0.9
男性	-1.2	3.4	-2.0	-0.1
女性	1.8	-0.9	0.2	-1.2
20歳代	3.4	0.5	-1.9	-1.9
30歳代	-1.5	2.8	-2.4	1.3
40歳代	5.5	1.1	-5.4	-1.2
50歳代	4.0	-3.0	2.2	-3.2
60歳代	-1.3	2.2	-0.1	-0.8
70歳代	-4.0	4.7	1.1	-1.8
80歳以上	-1.8	-2.6	3.8	0.7
中央	0.1	0.0	-1.4	1.3
東部	-1.6	-0.4	2.3	-0.3
西部	4.9	-6.6	0.7	0.9
南部	3.6	-1.3	5.7	-7.9
北部	-1.8	7.9	-0.3	-5.9
北東部	2.6	3.7	-7.8	1.6

図表3-2

鉄鋼業などの基幹産業の振興と新たな基幹産業の育成・誘致  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-0.6	-1.3	1.3	0.5
男性	-2.0	0.9	-0.1	1.2
女性	1.6	-4.2	2.1	0.5
20歳代	5.3	-3.5	-1.9	0.0
30歳代	-0.8	-5.0	3.4	2.4
40歳代	2.4	-1.9	1.1	-1.7
50歳代	-0.1	-6.4	7.7	-1.0
60歳代	-1.6	1.0	-0.3	1.1
70歳代	-2.5	2.9	0.7	-1.1
80歳以上	-0.4	-1.2	-3.6	5.3
中央	-2.6	2.2	-1.1	1.5
東部	0.1	-4.1	1.2	2.8
西部	-1.9	-3.5	3.6	1.7
南部	8.4	-10.9	8.7	-6.1
北部	1.2	0.7	-0.9	-1.0
北東部	-0.1	-6.4	5.3	1.1

## 【小売業・卸売業などの商業活動の振興】

- 20歳代の「満足」+「やや満足」の割合が増加し、「不満」+「やや不満」の割合が減少している。
- 一方で、40歳代～70歳代では「満足」+「やや満足」の割合が減少し、50歳代～70歳代で「不満」+「やや不満」の割合が増加しており、自分のニーズに合った身近な小売事業所が減少しているのではないかと考えられる。
- 小売業・卸売業の景況DIは、2018年から低下傾向にあり、2020年は新型コロナウイルスの影響で大幅に低下している。

図表3-4  
小売業・卸売業などの商業活動の振興  
2020年調査結果－2015年調査結果

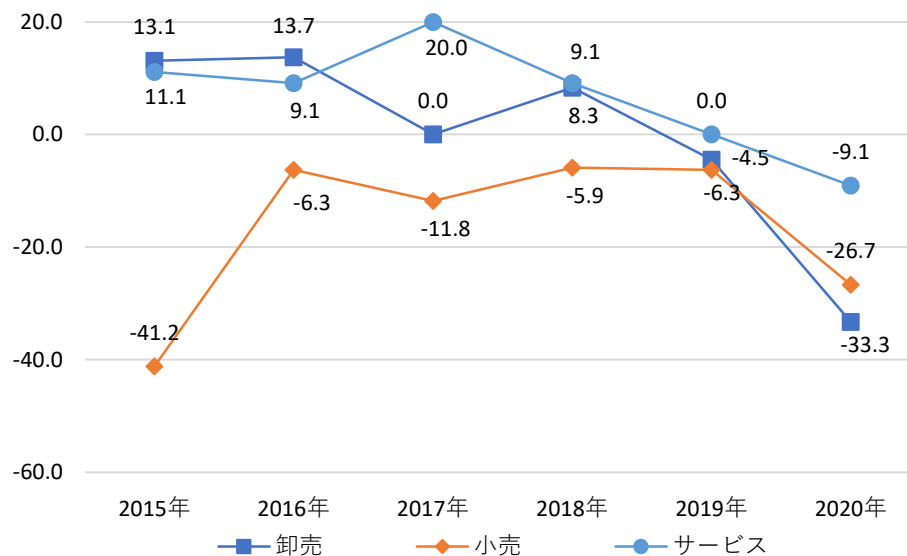
	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-1.3	0.5	0.4	0.3
男性	1.5	-0.8	-0.8	0.3
女性	-2.5	0.8	1.2	0.7
20歳代	7.3	7.3	12.6	-1.9
30歳代	2.4	-3.5	0.0	1.1
40歳代	-0.8	3.7	-1.9	-1.2
50歳代	-2.8	-3.2	7.8	-1.8
60歳代	-2.2	-2.2	3.1	1.5
70歳代	-5.4	5.5	0.1	0.0
80歳以上	1.9	-6.9	2.7	2.5
中央	-1.6	-1.8	2.2	1.3
東部	0.3	0.7	-3.7	2.6
西部	3.3	10.3	5.2	1.7
南部	3.8	0.5	0.4	-4.7
北部	-3.7	10.0	-4.0	-2.1
北東部	-4.6	1.0	3.1	0.6

## 検討の視点

【デジタル社会への対応など、ポスト・コロナを見据えた社会の変化に対応した取組とともに、地域（圏域）経済を循環させつつ、経済成長を図ることが必要】

- 地域経済の持続的成長のために必要な産業の新陳代謝の促進（新事業創出、起業・創業支援、事業継承など）や、デジタル化に対応するための意識啓発と人材育成を進めていく必要があるのではないかと。
- ポスト・コロナを見据えて、社会構造の変化に対応し、今後成長する産業や高付加価値化が見込まれる分野の産業の誘致・育成をしていく必要があるのではないかと。

図表3-5 小売業・卸売業の景況DI（毎年3月時点）



（資料）福山商工会議所「景気観測調査報告」

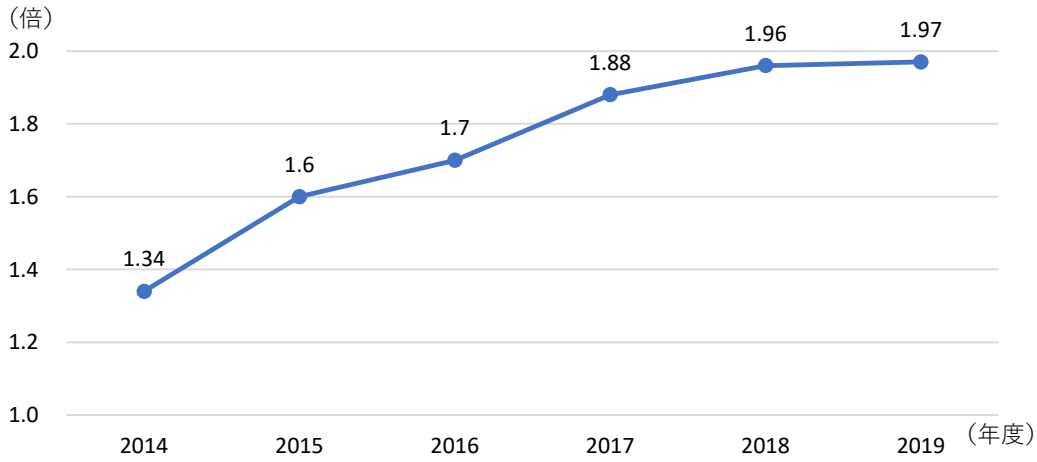
### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ② 誰もが働きやすい雇用環境の実現

##### 【雇用の安定と促進】

- 全ての年齢、性別、地域で「不満」+「やや不満」の割合が減少している。有効求人倍率が2014年度1.34→2019年度1.97に上がっていることが要因の一つと考えられる。
- 「不満」+「やや不満」の割合は減少したものの、2020年の「満足」+「やや満足」の割合11.6%に対して、「不満」+「やや不満」の割合が21.0%と、依然として不満と感じている人が多い。求人の内容と希望する職種にギャップがあることが要因の一つと考えられる（事務的職業の有効求人倍率は低く、生産工程の職業は高い）。
- 特に20歳代の「満足」+「やや満足」の割合が20.0%と他の年代より高くなっているが、新卒時の求人倍率の高さが影響していると考えられる。
- 性別で見ると、女性の「満足」+「やや満足」の割合が男性に比べて低い。

図表3-8 有効求人倍率の推移



(資料) 厚生労働省広島労働局「管内の雇用情勢」より作成

図表3-6

雇用の安定と促進  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	2.1	8.9	-11.9	0.8
男性	3.3	7.8	-13.3	2.1
女性	1.6	9.4	-11.3	0.2
20歳代	6.3	26.8	-31.1	-1.9
30歳代	3.6	11.1	-15.0	0.4
40歳代	0.3	12.6	-11.8	-1.2
50歳代	4.8	9.6	-13.2	-1.0
60歳代	-0.7	6.1	-6.8	1.4
70歳代	3.6	4.3	-9.6	1.7
80歳以上	0.2	-0.4	-4.3	4.6
中央	1.1	9.5	-12.6	2.1
東部	4.8	10.3	-16.4	1.3
西部	-1.0	2.7	-5.0	3.3
南部	1.1	15.9	-10.7	-6.4
北部	3.6	11.1	-13.1	-1.6
北東部	3.5	-3.0	-4.3	3.7

図表3-7

雇用の安定と促進  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	11.6	57.8	21.0	9.5
男性	14.3	56.1	22.4	7.1
女性	9.9	59.7	19.7	10.7
20歳代	20.0	66.0	13.0	1.0
30歳代	10.9	64.2	22.3	2.7
40歳代	9.1	63.1	25.1	2.7
50歳代	12.6	60.7	25.2	1.6
60歳代	10.3	57.9	23.6	8.2
70歳代	12.7	51.6	16.7	18.9
80歳以上	8.9	42.9	19.7	28.6
中央	10.6	59.2	20.6	9.6
東部	13.0	59.1	19.7	8.3
西部	12.8	56.4	23.4	7.4
南部	10.2	61.4	23.8	4.5
北部	10.8	57.3	22.2	9.7
北東部	14.1	49.1	23.6	13.2



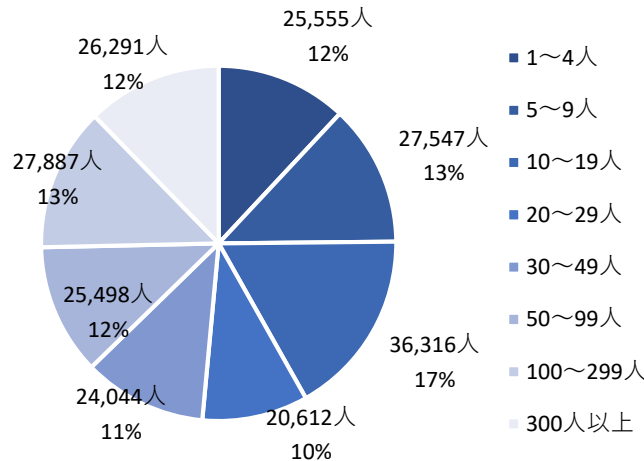
## 【企業による働き方改革の促進】

- 20歳代は、比較的「満足」+「やや満足」の割合が高い。
- 30歳代～50歳代で「不満」+「やや不満」の割合が高いのは、子育てや介護といった理由から家庭で過ごす時間を必要としているが、企業による働き方改革が不十分なことが要因の一つと考えられる。
- 市内には中小企業や小規模企業の従業員が多いが、大企業と比較して中小企業・小規模企業の働き方改革の取組は進んでいない。

図表3-9  
企業による働き方改革の促進  
2020年調査結果

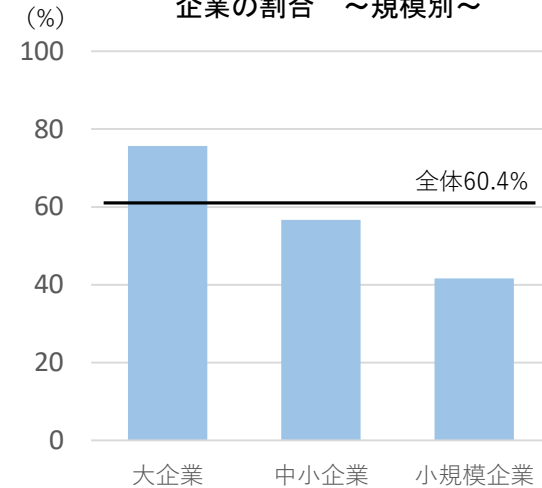
	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	11.4	53.8	25.0	9.8
男性	11.1	56.3	25.7	6.9
女性	11.3	52.6	24.5	11.6
20歳代	20.0	55.0	23.0	2.0
30歳代	10.8	48.6	37.2	3.4
40歳代	10.7	52.9	33.7	2.7
50歳代	13.1	54.5	31.5	1.0
60歳代	11.1	57.9	22.3	8.6
70歳代	8.4	57.5	14.9	19.3
80歳以上	9.8	42.9	17.9	29.5
中央	11.6	54.5	24.5	9.4
東部	10.7	55.5	24.4	9.4
西部	13.8	54.3	24.5	7.4
南部	12.5	52.3	30.7	4.5
北部	10.3	54.1	25.4	10.3
北東部	8.5	50.0	28.3	13.2

図表3-10 従業員規模別の従業員数（福山市）



(資料) 総務省・経済産業省  
「平成28年 経済センサス-活動調査」

図表3-11 働き方改革に取り組んでいる企業の割合 ～規模別～



(資料) 帝国データバンク調査 (2019年)  
全国10,292社が回答

## 検討の 視点

【若者、女性、高齢者、障がい者、外国人など、誰もが働きやすい環境づくりが必要】

- 働きたい人と雇用したい事業者の仕事のギャップを解消するため、デジタル技術の活用(テレワークの導入など)により、多様な働き方に対応していく必要があるのではないかな。
- 働き方改革の促進に当たって、今後は中小企業・小規模企業において特にワーク・ライフ・バランス認定企業を拡大していく必要があるのではないかな。

### 3 活力ある産業があり, 安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ③ 先端技術の活用促進

##### 【企業や地域への先端技術(AI, 自動運転等)の活用促進】

- 全体として, 「どちらともいえない」の割合が68.5%と高い。  
(全項目平均:56.3%)
- 20歳代では「満足」+「やや満足」の割合が高い。
- 2018年度から公共交通の維持や高齢者の移動手段の確保など, 民間企業の先端技術を活用した実証実験を市内各所で開始し, 地域課題の解決に向けて取り組んできたほか, 2019年度には「ふくやまICT戦略」を策定した。
- 現在, 「新しい生活様式」に対応するため, 先端技術活用を促進する様々な取組を加速させている。

図表3-12  
企業や地域への先端技術(AI, 自動運転等)の活用促進  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	7.0	68.5	14.3	10.2
男性	9.4	64.0	19.7	6.9
女性	5.3	72.5	10.0	12.2
20歳代	13.0	72.0	13.0	2.0
30歳代	4.7	77.0	14.2	4.1
40歳代	5.8	78.1	13.3	2.7
50歳代	6.8	73.8	16.7	2.6
60歳代	6.0	71.7	13.3	9.0
70歳代	6.6	60.0	14.9	18.5
80歳以上	10.7	44.6	14.2	30.4
中央	7.3	68.8	13.1	10.8
東部	7.1	70.9	13.4	8.7
西部	6.4	72.3	13.8	7.4
南部	10.2	67.0	17.0	5.7
北部	6.0	68.6	15.7	9.7
北東部	5.7	62.3	18.9	13.2

#### 検討の 視点

##### 【地域, 産業, 行政で先端技術が実装化され, 地域課題を解決していくことが必要】

- 先端技術の活用により, 企業活動や市民生活をより良いものにするためには, より身近な分野への取組を進め, 市民がその取組効果を実感できるよう, 市民の理解を得ながら, 実装へ向けて加速化させていく必要があるのではないかと。
- 「ふくやまICT戦略」に基づき, 重点的に取り組む7分野について, 市民・企業がメリットを実感できるよう, 分野を超えて関係課が連携していく必要があるのではないかと。



### 3 活力ある産業があり, 安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ④ 農林水産業の活性化

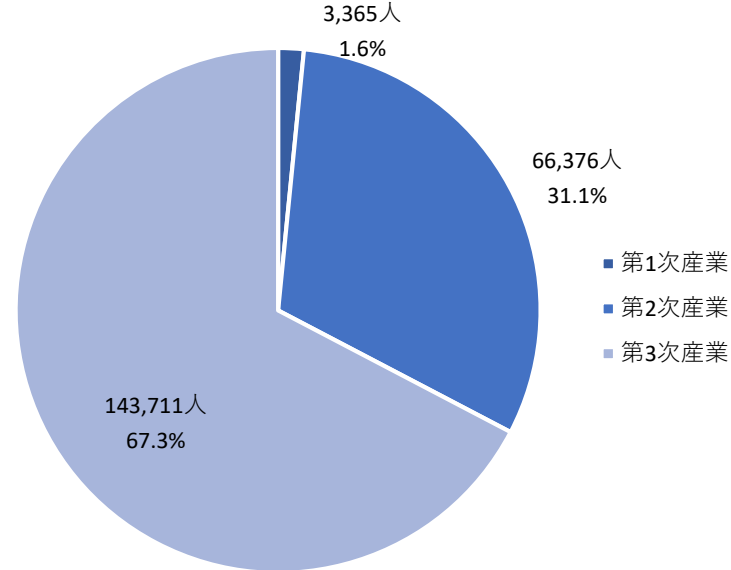
##### 【農林水産業の振興】

- 全体として, 「満足」+「やや満足」の割合が前回の調査と比べて減少し, 「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 20歳代では「満足」+「やや満足」の割合が増加し, 「不満」+「やや不満」の割合が減少している。一方で, 60歳代と70歳代では「満足」+「やや満足」の割合が減少し, 「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 農林水産業に従事していない人にとっては, 直接的な影響がない行政サービスであり, 「どちらともいえない」の割合が68.7%と多い(全項目平均:56.3%)。そのため, 市民の関心度が低いと考えられる。(2015年国勢調査の第1次産業従事者:1.6%, 2020年市民意識調査時に職業を「農林漁業」と回答した人:8人/1,262人)
- 「福山市情報発信に係るインターネット調査」においても, ぶどうやばらにちなんだ「ワイン」や, 「備後フィッシュ」の認知度が低い。
- 2020年調査を見ると, 年代が上がるにつれて, 「どちらともいえない」の割合が減少傾向にあり, 年齢層の上昇とともに, 農林水産業に関心が出てくるのではないかと考えられる。

図表3-13  
農林水産業の振興  
2020年調査結果 - 2015年調査結果

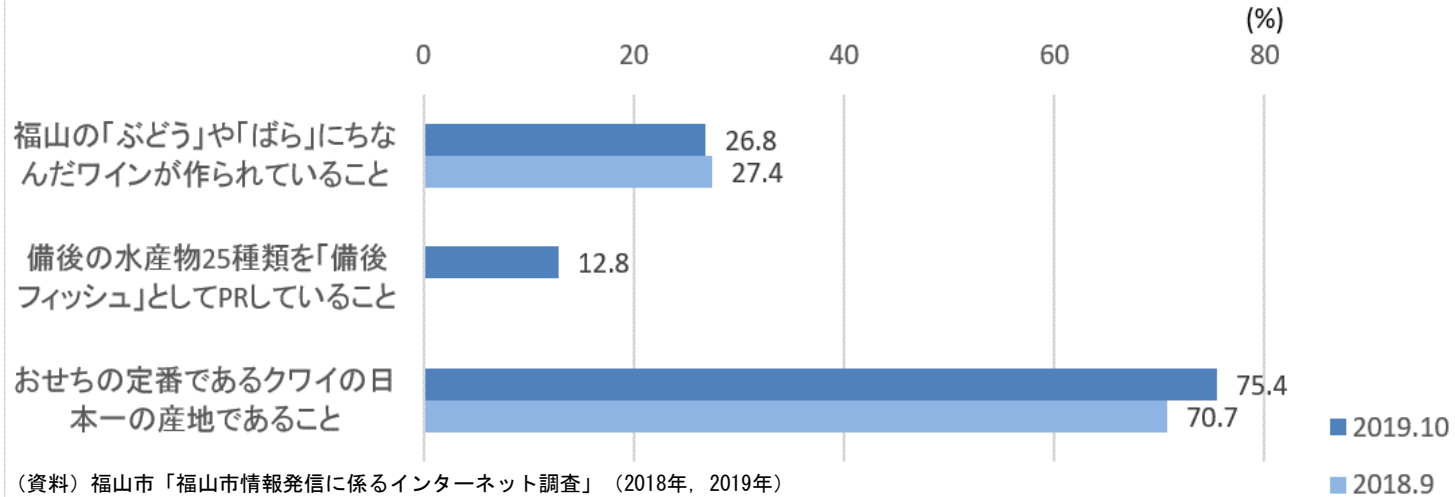
	2020年構成比 - 2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-1.8	-0.5	1.7	0.6
男性	-2.4	1.4	0.6	0.5
女性	-1.0	-2.7	2.6	1.3
20歳代	6.2	3.5	-8.8	-1.0
30歳代	2.1	0.4	-0.1	1.8
40歳代	-1.6	1.8	0.4	-0.7
50歳代	-0.3	-3.1	4.7	-1.4
60歳代	-3.7	-2.3	4.1	1.9
70歳代	-4.3	-0.9	4.6	0.6
80歳以上	1.3	-2.7	1.8	-0.3
中央	-1.9	1.5	-1.6	2.1
東部	-3.1	3.5	-0.5	0.1
西部	0.7	13.1	7.7	4.7
南部	-2.5	-0.9	8.9	-5.5
北部	-3.3	-0.5	5.3	-1.6
北東部	1.5	-8.5	4.3	2.7

図表3-14 福山市の産業区分別就業人数



(資料) 総務省「国勢調査」(2015年)

図表3-15 福山市が力を入れている取組や地域資源の認知度



検討の視点

【農林水産業への関心を高めるとともに、人材不足を解消し、経営の安定化を図ることが必要】

- 農林水産業への関心を高めるためには、地元の産物と関わる機会を増やすことが必要なのではないか。
- 担い手不足解消のために、先端技術(AI・ICTなど)の導入や人材シェアリングなどの検討や、異業種の農業参入の促進が必要ではないか。
- 経営の安定化のため、市内の給食との連携を強化する必要があるのではないか。

図表3-16 農林水産業の振興 2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	6.4	68.7	14.8	10.1
男性	8.3	65.9	19.0	6.9
女性	4.9	71.4	11.9	11.9
20歳代	16.0	80.0	3.0	1.0
30歳代	4.7	78.4	12.9	4.1
40歳代	4.3	83.4	9.1	3.2
50歳代	6.3	73.8	17.8	2.1
60歳代	4.7	64.8	21.4	9.0
70歳代	5.5	58.9	17.1	18.5
80歳以上	9.0	47.3	14.3	29.5
中央	6.3	71.2	11.9	10.6
東部	5.9	75.6	10.6	7.9
西部	6.4	64.9	19.1	9.6
南部	5.7	68.2	21.6	4.5
北部	4.8	63.8	21.6	9.7
北東部	9.4	59.4	17.9	13.2

### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ⑤ 交流・物流ネットワーク機能等の産業インフラの整備

##### 【近隣の市町や隣の県につながる基幹道路の整備】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合は減少し、「不満」+「やや不満」の割合は増加している。
- 国土交通省の過去5年間(2015年度～2019年度)の直轄国道の路線別渋滞ランキングにおいて、国道2号線の市内交差点が上位を占めており、「渋滞しやすい」というイメージが定着したことが影響していると考えられる。
- 地域別に見ると、南部・西部において、「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「不満」+「やや不満」の割合が増加している。

図表3-17

近隣の市町や隣の県につながる基幹道路の整備  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満	無回答
全体	-5.1	-3.1	7.2	0.9
男性	-5.4	-4.5	9.3	0.5
女性	-3.7	-3.5	5.7	1.5
20歳代	3.6	-4.0	1.4	-1.0
30歳代	3.5	-6.2	3.5	-0.8
40歳代	-6.0	6.3	0.4	-0.7
50歳代	-3.1	-10.4	14.8	-1.2
60歳代	-6.3	-6.6	10.2	2.6
70歳代	-7.9	-2.2	8.4	1.6
80歳以上	-13.9	1.3	9.8	2.8
中央	-4.4	-4.3	7.2	1.5
東部	-8.0	-3.6	9.4	2.2
西部	-14.3	-2.1	11.3	5.0
南部	-4.0	-9.1	16.6	-3.7
北部	1.4	-1.4	2.0	-1.9
北東部	-3.8	-0.4	1.0	3.2

図表3-18 国道2号 渋滞ランキング 年間合計（平成30年）

順位	渋滞損失時間※3	平均交通量※4	1台あたり損失時間※5	都道府県	市区町村	区間名	延長(km)
1	119	44,092	4.4	広島県	広島市	東雲インター入口交差点～出汐町交差点	2.0
2	95	34,143	4.6	広島県	福山市	紅葉町交差点～小田川橋交差点	2.3
3	90	21,859	6.8	岡山県	倉敷市	大西交差点付近～中新田交差点	3.5
4	72	24,355	4.8	広島県	福山市	明神町交差点～府中分かれ交差点	2.3
5	71	65,785	1.8	岡山県	岡山市	バイパス豊成交差点～青江交差点	1.6

対象は7時～19時(12時間)、年間の時間別平均旅行速度が、いずれかの時間で20km/h以下となる区間を対象  
※3 混雑により余計にかかる時間(単位:万人・時間/年) ※4 平均交通量・昼間12時間の平均交通量(単位:台/12h)  
※5 1台あたりが区間を通過する際に余計にかかる時間(単位:分)



(資料) 国土交通省「平成30年 年間・GW期間の渋滞ランキング」より

図表3-19 国道2号 渋滞ランキング 年間合計（令和元年）

順位	渋滞損失時間※3	平均交通量※4	1台あたり損失時間※5	都道府県	市区町村	区間名	延長(km)
1	124	44,540	4.6	広島県	広島市	東雲インター入口交差点～出汐町交差点	2.0
2	98	22,588	7.1	岡山県	倉敷市	大西交差点付近～中新田交差点	3.5
3	94	33,920	4.5	広島県	福山市	紅葉町交差点～小田川橋交差点	2.3
4	74	71,494	1.7	岡山県	岡山市	バイパス豊成交差点～青江交差点	1.6
5	71	24,991	4.7	広島県	福山市	明神町交差点～府中分かれ交差点	2.3



(資料) 国土交通省「平成31年・令和元年 年間の渋滞ランキング」より

## 【港湾の整備】

- 全体として、「満足」+「やや満足」及び「不満」+「やや不満」の割合はそれぞれ減少し、「どちらともいえない」の割合が増加している。
- ふくやま港まつりなどを通じて港湾行政について周知啓発しているが、「どちらともいえない」の割合が増えたのは、無関心層の増加が影響している可能性がある。

## 【産業の基盤となる工業団地，流通団地などの整備】

- 「どちらともいえない」の割合が前回調査と比較すると0.9%減少しているが、2020年度調査の結果は66.1%と高い。（全項目平均：56.3%）
- 市民にとって直接的な接点のある行政サービスではなく、北産業団地の整備も着工していないことから、評価すべき内容が分からなかったことが要因の一つと考えられる。
- 北部地域の「満足」+「やや満足」の割合の増加と、「不満」+「やや不満」の割合の減少は、地元説明や福山北産業団地第2期事業の再開が要因と考えられる。

## 検討の 視点

### 【本市・備後圏域の経済活動を発展させるためには、早期の物流・交流機能等の基盤整備が必要】

- インフラ整備は完了までに長い期間が必要なため、市民が効果を感じるまでに時間がかかる。整備完了までの間に必要なソフト対策（公共交通機関を利用した通勤の促進など）も充実すべきではないか。
- 経済への効果や、災害時のダブルネットワークとしての役割などの周知により、事業の必要性をより市民に知ってもらう必要があるのではないか。

図表3-20

港湾の整備  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満	無回答
全体	-4.0	4.3	-0.8	0.6
男性	-4.5	5.1	-1.3	0.5
女性	-3.2	2.7	-0.6	1.2
20歳代	3.2	8.5	10.7	-1.0
30歳代	-2.3	6.5	-3.0	-1.3
40歳代	-1.4	6.6	-3.5	-1.7
50歳代	-2.5	1.6	2.3	-1.5
60歳代	-4.0	3.7	-0.8	1.1
70歳代	-9.3	3.9	3.5	1.9
80歳以上	-6.8	-0.8	2.4	5.3
中央	-4.9	6.8	-3.1	1.2
東部	-6.5	7.4	-2.1	1.3
西部	-2.4	-3.5	3.4	2.5
南部	-7.6	2.9	9.7	-5.2
北部	-3.4	5.3	-1.9	-0.1
北東部	3.2	-8.4	1.2	4.0

図表3-21

産業の基盤となる工業団地，流通団地などの整備  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満	無回答
全体	-1.4	-0.9	1.8	0.5
男性	-2.2	2.1	-0.4	0.7
女性	-0.4	-4.0	3.5	1.0
20歳代	7.2	-9.4	3.1	-1.0
30歳代	-2.1	-3.4	4.3	1.3
40歳代	1.0	-0.2	-0.1	-0.7
50歳代	-2.0	-5.2	8.1	-1.0
60歳代	0.1	-4.4	2.8	1.5
70歳代	-7.2	10.3	-2.2	-1.0
80歳以上	0.8	-5.4	-0.5	5.2
中央	-3.9	0.4	1.2	2.3
東部	-2.5	-2.4	3.8	1.3
西部	-0.5	-2.7	0.7	2.5
南部	6.3	-3.9	1.6	-4.1
北部	3.1	-1.7	0.1	-1.6
北東部	-2.7	-1.3	3.9	0.0

### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

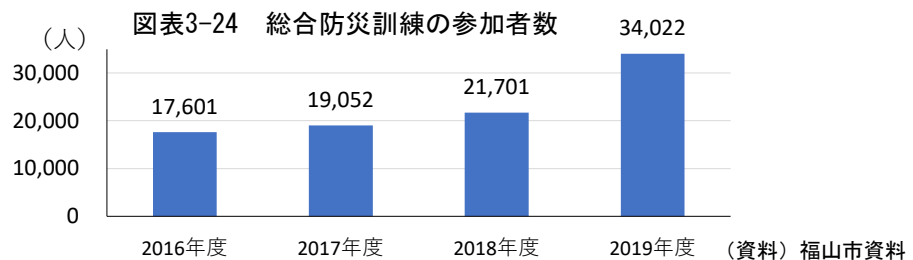
#### ⑥ 災害への備え

##### 【豪雨や地震等の自然災害対策の充実】

- 全体として、「どちらともいえない」の割合が減少し、「不満」+「やや不満」の割合が増加している。
- 総合防災訓練の参加者が増加しており、平成30年7月豪雨災害の影響で防災への関心が高まったことが、「どちらともいえない」の割合の減少につながったと考えられる。
- 東部と中央において、「不満」+「やや不満」の割合の増加幅が小さいのは、芦田川や手城川などで、地域住民の目に見える形で浸水対策が実施されているためと推測される。

##### 【消防や救急体制の充実】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加している。
- 市民と消防との関わりは救急搬送時や災害時など限定的であり、消防・救急体制の充実状況が市民に伝わっていないことが原因と考えられる。



#### 検討の視点

##### 【安心・安全を実感できる災害への備えが必要】

- 市民が何に不安・不満を感じているのか、災害時にどう行動すればよいか理解しているかを把握する必要があるのではないか。
- 災害時の地域内での助け合いを高めるためにも、自助・共助のソフト面の取組をもっと充実させていく必要があるのではないか。
- 消防の活動を市民に効果的に発信する方法を検討する必要があるのではないか。

図表3-22 豪雨や地震等に対する防災体制や自然災害対策の充実 2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-0.5	-12.0	13.3	-0.9
男性	-1.7	-10.1	12.4	-0.6
女性	1.2	-14.0	13.3	-0.5
20歳代	5.4	-19.8	14.4	0.0
30歳代	3.7	-15.5	12.6	-0.9
40歳代	3.0	-17.3	16.1	-1.8
50歳代	-5.8	-14.9	22.2	-1.7
60歳代	-5.0	-7.3	10.4	2.0
70歳代	1.2	-12.5	10.8	0.5
80歳以上	2.1	-0.1	5.5	-7.5
中央	0.5	-13.1	11.6	0.9
東部	4.4	-9.6	8.1	-2.9
西部	-6.8	-16.1	25.7	-2.8
南部	1.6	-15.2	13.8	-0.2
北部	-2.7	-11.5	16.0	-1.8
北東部	-6.8	-11.6	18.1	0.3

図表3-23 消防や救急体制の充実 2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-11.4	11.9	-0.4	-0.2
男性	-14.8	15.4	-0.5	-0.4
女性	-7.4	8.3	-1.2	0.4
20歳代	4.7	0.2	-4.9	0.0
30歳代	-5.6	8.0	-1.4	-0.9
40歳代	-5.4	9.0	-1.8	-1.8
50歳代	-15.1	14.6	1.3	-0.7
60歳代	-16.9	17.9	-1.9	1.1
70歳代	-14.9	12.3	-0.3	3.0
80歳以上	-7.5	8.2	6.0	-6.6
中央	-12.1	11.9	-1.1	1.3
東部	-17.9	18.0	-0.2	0.2
西部	-3.0	2.9	1.9	-2.0
南部	-9.8	13.4	-1.6	-2.1
北部	-8.4	8.7	1.7	-1.9
北東部	-10.2	12.7	-2.9	0.3

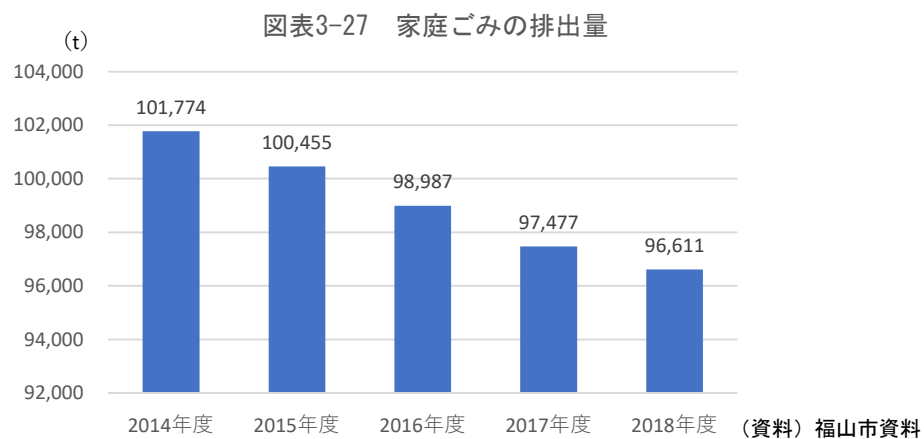


### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ⑦ 環境対策

【リサイクルやエネルギーの効率的な利用の促進, ごみ, し尿, 産業廃棄物の適切な処理】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加している。
- 緑のカーテンやノーマイカー運動などの環境に配慮した取組がより一般的となり、市民の関心が薄れている可能性がある。
- エコでえ〜ことHAPPY！キャンペーンやリサイクルプラザにおけるecoチャレンジ講座などの啓発活動により、市民の3Rの意識が高まり、家庭ごみの排出量の減少につながっていると考えられるが、取組が市民に浸透したことで、今までと同じ取組では満足されなくなった可能性がある。



#### 検討の視点

【持続可能な社会に向けた国際的な潮流に合わせて、循環型社会の実現に取り組むことが必要】

- 海洋プラスチックごみ問題等を受けたレジ袋の有料化や食品ロス問題などSDGsの取組を契機として、改めて環境問題に関する市民の関心を高めるための取組が必要ではないか。

図表3-25  
リサイクルやエネルギーの効率的な利用の促進  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	14.1	11.2	2.0	0.9
男性	12.9	13.8	-0.9	0.1
女性	14.6	8.9	3.7	2.0
20歳代	0.6	0.2	-0.8	0.0
30歳代	12.1	13.4	-1.1	-0.3
40歳代	16.6	16.5	0.7	-0.8
50歳代	12.6	9.7	3.7	-0.7
60歳代	17.2	10.2	5.0	2.0
70歳代	17.0	8.6	4.5	4.0
80歳以上	-9.3	17.0	-5.1	-2.3
中央	12.8	11.0	-0.6	2.4
東部	19.4	18.0	0.5	1.0
西部	12.0	5.6	7.8	-1.4
南部	17.4	9.1	8.1	0.2
北部	11.2	11.8	0.5	-1.2
北東部	14.8	6.4	6.8	1.7

図表3-26  
ごみ, し尿, 産業廃棄物の適正な処理  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	23.7	21.9	0.1	1.7
男性	25.4	25.5	-0.8	0.7
女性	21.8	18.5	0.7	2.7
20歳代	11.3	17.9	-6.7	0.0
30歳代	24.7	22.4	1.3	1.0
40歳代	28.6	30.4	-0.9	-0.8
50歳代	24.9	27.9	-2.4	-0.7
60歳代	30.0	22.4	2.6	5.2
70歳代	20.8	14.9	1.9	4.0
80歳以上	15.9	15.4	1.4	-0.8
中央	21.0	20.4	-2.2	2.8
東部	24.6	26.6	-3.2	1.0
西部	28.5	22.9	6.3	-0.6
南部	23.0	16.8	5.2	0.9
北部	27.8	21.0	5.2	1.6
北東部	24.3	23.9	-2.2	2.5

### 3 活力ある産業があり, 安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ⑧ 暮らしを支える地域交通の確保

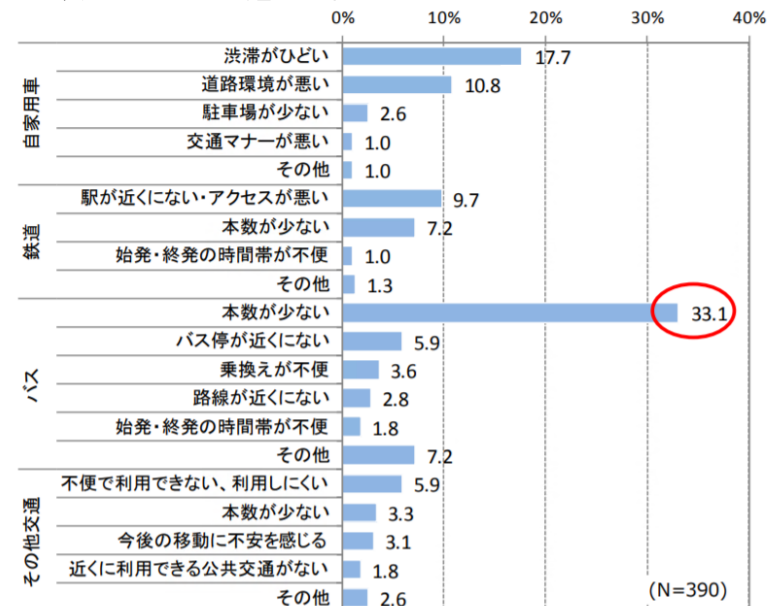
##### 【市内のバスや鉄道など利用しやすい公共交通網の整備】

- 全体として, 「満足」+「やや満足」の割合が減少し, 「不満」+「やや不満」の割合が増加した。また, その傾向については, 60歳以上で顕著である。
- 60歳以上で「不満」+「やや不満」の割合が増加しているのは, 運賃は消費税増税対応以外で上がっていないことから, ダイヤ(本数)に不満がある可能性や, 交通関係の負担軽減のための支援策が近隣市町と比較して充実していない(尾道市: 75歳以上の高齢者は市内であれば30円でバスに乗れる。/ 神石高原町: 75歳以上の高齢者は町内であれば片道600円でタクシーに乗れる。/ 福山市: 75歳以上の高齢者に市内のバス・タクシーで使える年間3,000円分の「おでかけ乗車券」を交付)と感じている可能性がある。
- 「生活交通に関するニーズ把握調査」では, 不満を感じている理由として, 「本数が少ない」が圧倒的に多い。
- 「2019年度中核市行政水準調査」によると, 「1日当たりの路線バスの利用者数/市民1人当たり」は中核市58自治体中51位, 「1日鉄道乗車人員/市民1万人」は中核市58自治体中39位と, 下位に分類される。
- 年代を問わず, 様々な公共交通で相互利用できるICカードの導入が進んでいないことも満足度の低下につながっている可能性がある。

図表3-28  
市内のバスや鉄道など利用しやすい公共交通網の整備  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-5.2	-0.3	5.0	0.6
男性	-4.1	-0.6	5.1	-0.4
女性	-4.5	-1.6	4.4	1.7
20歳代	-0.4	1.7	-1.3	0.0
30歳代	-2.1	-2.6	3.8	1.0
40歳代	-3.2	3.0	2.0	-1.8
50歳代	-8.2	11.3	-2.1	-1.2
60歳代	-1.9	-10.7	10.0	2.6
70歳代	-8.2	0.7	5.3	2.1
80歳以上	-12.1	-2.9	15.1	0.0
中央	-5.4	-0.6	3.9	2.2
東部	-1.8	13.6	-11.5	-0.2
西部	0.4	-9.8	10.3	-0.9
南部	-6.8	-6.8	13.9	-0.2
北部	-6.6	-7.5	14.4	-0.3
北東部	-10.1	-4.7	14.5	0.3

図表3-29 公共交通の不满の理由



(資料) 福山市「生活交通に関するニーズ把握調査」(2016年)  
対象者: 福山市に居住する15歳以上

## 検討の 視点

【コンパクトシティや地域戦略と一体となった、地域公共交通ネットワークの形成が必要】

- 公共交通の不満で最も多い、本数の充実に向けた取組(人材確保や先端技術の活用など)の強化に、民間事業者とどのように取り組んでいくのか。
- 誰もが利用しやすい公共交通網の整備に向け、最寄りのバス停や駅等までの移動支援にどう取り組んでいくのか。

### 3 活力ある産業があり、安心・安全で快適に暮らせるまち

#### ⑨ 安全・快適な上下水道施設の整備

【安心・安全な水道水の安定供給，下水道の普及と整備】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加した。
- 一方、「不満」+「やや不満」の割合は、いずれも減少している。水道については、計画的かつ効率的な管路や施設の更新，耐震化の実施により，安心・安全な水道水の安定供給を維持できている。下水道については，新規供用開始や既存施設の耐震化・長寿命化の計画的な実施により，支障なく下水道を使用できる状態を維持できていることが，こうした評価につながっているものと考えられる。

#### 検討の視点

【将来にわたって持続可能な上下水道を実現することが必要】

- 市民生活や社会経済活動に欠くことのできないライフラインである上下水道を維持していくためには，どのような取組が必要なのか。（適正な維持管理，老朽化した管路や施設の更新など）
- 災害時においても市民生活への影響を最小限にとどめ，事業を継続していくためには，どのような取組が必要なのか。

図表3-30  
安心・安全な水道水の安定供給  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満	無回答
全体	-10.9	13.9	-2.6	-0.4
男性	-15.4	17.6	-2.1	-0.2
女性	-7.8	11.5	-3.5	-0.1
20歳代	-4.0	10.7	-6.7	0.0
30歳代	-2.2	8.2	-5.8	-0.3
40歳代	-14.6	19.2	-2.9	-1.8
50歳代	-8.0	10.5	-0.9	-1.6
60歳代	-18.7	17.6	-0.2	1.2
70歳代	-11.9	15.2	-4.6	1.2
80歳以上	-7.6	9.9	0.5	-2.8
中央	-12.6	14.6	-2.4	0.3
東部	-11.7	15.9	-4.8	0.6
西部	-2.5	14.6	-0.1	-2.0
南部	-11.8	11.8	-0.7	0.7
北部	-11.4	14.0	-1.2	-1.2
北東部	-11.3	16.9	-5.3	-0.2

図表3-31  
下水道の普及と整備  
2020年調査結果－2015年調査結果

	2020年構成比－2015年構成比（%ポイント）			
	満足＋ やや満足	どちらとも いえない	不満＋ やや不満	無回答
全体	-8.0	11.8	-3.6	-0.3
男性	-8.8	14.9	-5.2	-0.8
女性	-7.4	9.4	-2.5	0.6
20歳代	0.7	1.0	-1.7	0.0
30歳代	2.8	5.6	-9.6	1.1
40歳代	-14.2	18.7	-2.2	-2.3
50歳代	-8.6	12.9	-3.1	-1.2
60歳代	-13.8	18.1	-5.1	0.9
70歳代	-8.6	10.8	-4.1	1.9
80歳以上	-5.1	6.7	4.2	-5.7
中央	-9.8	14.2	-5.2	0.9
東部	-15.6	17.9	-2.1	-0.2
西部	7.0	-7.5	1.8	-1.4
南部	3.0	-0.0	-2.0	-1.0
北部	-8.4	9.9	-1.4	-0.2
北東部	-16.7	20.7	-3.4	-0.6



# 4 世界や地域で活躍し、未来を創造する“ひと”を育むまち

## ① 学校教育の充実

### 【小学校・中学校・高等学校などの学校教育の充実】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が増加し、「不満」+「やや不満」の割合が減少している。
- 小・中・高校生等の子どもがいる人で見ても、同様の傾向となっている。
- 特に中学生の子どもがいる人は、小学生・高校生等の子どもがいる人と比べて、「満足」+「やや満足」の割合の増加幅と、「不満」+「やや不満」の割合の減少幅がともに大きい。
- 中学生の子どもがいる人の「満足」+「やや満足」の増加については、中学校給食の完全実施による保護者負担の軽減が要因の一つと考えられる。
- 南部地域の「不満」+「やや不満」の割合の増加については、児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化、学校再編による環境変化への不安、高等学校への通学が遠距離であること等が要因と考えられる。

図表4-1

小学校・中学校・高等学校などの学校教育の充実  
2020年調査結果—2015年調査結果

	2020年構成比—2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	4.8	-2.7	-2.5	0.3
男性	8.5	-3.5	-4.6	-0.5
女性	2.3	-3.4	-0.6	1.7
20歳代	9.7	-8.0	-2.6	1.0
30歳代	4.3	2.1	-8.9	2.4
40歳代	6.6	2.0	-6.0	-2.8
50歳代	6.8	-2.5	-3.8	-0.5
60歳代	0.9	-1.9	0.1	0.9
70歳代	0.5	-4.0	1.7	1.7
80歳以上	12.1	-10.9	0.6	-1.7
中央	4.4	-0.5	-4.3	0.3
東部	10.6	-7.6	-5.9	3.0
西部	4.3	-4.2	-2.7	2.5
南部	6.3	-10.0	8.4	-4.8
北部	-0.2	-0.8	0.9	0.2
北東部	2.5	-4.7	1.3	0.9

図表4-2

小・中・高校生等の子どもがいる人の経年変化  
2020年調査結果—2015年調査結果

	2020年構成比—2015年構成比 (%ポイント)		
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
全体	4.3	-2.0	-2.3
20歳代	-37.5	-37.5	75.0
30歳代	21.8	-12.9	-8.9
40歳代	3.4	1.8	-5.1
50歳代	-12.9	10.4	2.5
60歳代	5.7	0.4	-6.1
70歳代	-28.7	27.9	0.7
80歳以上	75.0	-41.7	-33.3

図表4-3

小学生の子どもがいる人の経年変化  
2020年調査結果—2015年調査結果

	2020年構成比—2015年構成比 (%ポイント)		
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
全体	4.1	-11.6	7.5
20歳代	0.0	-33.3	33.3
30歳代	6.7	-4.4	-2.3
40歳代	1.9	-5.3	3.4
50歳代	13.6	-20.5	6.8
60歳代	-	-	-
70歳代	-	-	-
80歳以上	-	-	-

図表4-4

中学生の子どもがいる人の経年変化  
2020年調査結果—2015年調査結果

	2020年構成比—2015年構成比 (%ポイント)		
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
全体	5.9	2.1	-8.1
20歳代	-	-	-
30歳代	47.1	-28.8	-18.3
40歳代	1.7	14.0	-15.7
50歳代	-17.8	13.3	4.4
60歳代	0.0	0.0	0.0
70歳代	-33.3	58.3	-25.0
80歳以上	-	-	-

図表4-5

高校生等の子どもがいる人の経年変化  
2020年調査結果—2015年調査結果

	2020年構成比—2015年構成比 (%ポイント)		
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満
全体	2.4	0.9	-3.3
20歳代	-	-	-
30歳代	100.0	-50.0	-50.0
40歳代	7.4	-1.7	-5.7
50歳代	-20.4	12.7	7.7
60歳代	31.3	-27.1	-4.2
70歳代	-29.5	21.4	8.0
80歳以上	75.0	-25.0	-50.0

## 検討の 視点

### 【子ども一人一人に公正に個別最適化された学習環境の提供が必要】

- 学びを通して、これからの時代に求められる資質・能力(①社会の中で活用できる知識・技能(何を知っているか, 何ができるか), ②思考力・判断力・表現力等(知っていること・できることをどう使うか), ③学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか))を全ての子どもたちが獲得するために, どのような環境整備(ソフト・ハード両面)が必要なのか。

## 4 世界や地域で活躍し、未来を創造する“ひと”を育むまち

### ② 世界で活躍できる人材育成と大学・研究機関機能の充実

#### 【世界で活躍できる人材育成の充実】

- 全調査項目の2020年の「満足」+「やや満足」の割合（20.1%）と比べて、当該項目の同割合は7.2%と低い。
- 全国高等学校PTA連合会が実施した「高校生と保護者の進路に関する意識調査」では、グローバル化に通用する人材になってほしいという回答の割合が年々増加していることから、全国的にニーズが高い。しかし、市内の教育機関がニーズを踏まえた人材を育成できていないため、満足度が低いのではないかと考えられる。
- なお、同調査において、グローバル人材に必要な能力は、「コミュニケーション力」や「語学力」と回答した保護者が多い。

#### 【大学・研究機関の機能充実や研究開発基盤の整備】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が減少し、「不満」+「やや不満」の割合が増加している。

図表4-6

世界で活躍できる人材育成の充実  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	7.2	66.8	17.0	9.0
男性	8.8	67.2	17.6	6.3
女性	6.1	66.5	16.7	10.6
20歳代	8.0	72.0	17.0	3.0
30歳代	5.4	68.2	21.0	5.4
40歳代	9.1	70.6	18.2	2.1
50歳代	6.8	73.8	17.3	2.1
60歳代	6.1	67.4	19.3	7.3
70歳代	6.6	61.5	14.6	17.5
80歳以上	10.7	56.3	9.8	23.2
中央	7.3	68.0	16.9	7.8
東部	6.3	67.7	17.7	8.3
西部	7.5	70.2	12.8	9.6
南部	6.8	67.0	19.4	6.8
北部	7.0	67.0	15.1	10.8
北東部	7.5	60.4	20.7	11.3

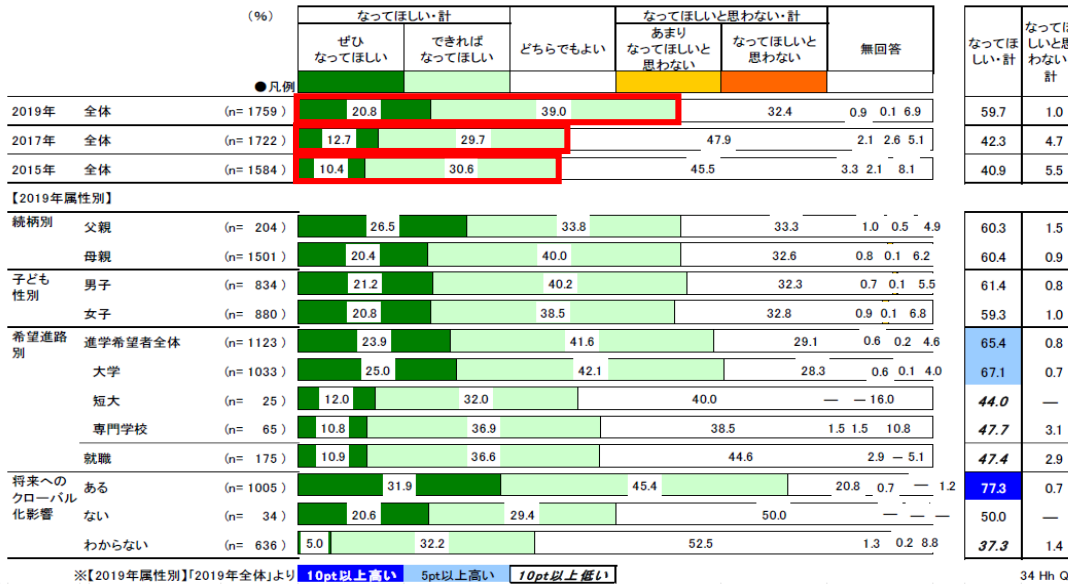
図表4-7

大学・研究機関の機能充実や研究開発基盤の整備  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	-5.5	1.7	5.0	-1.1
男性	-6.5	3.6	4.1	-1.3
女性	-4.7	-0.8	6.4	-0.7
20歳代	0.2	-6.5	6.3	0.0
30歳代	-2.5	-2.7	5.0	0.3
40歳代	-5.8	10.6	-1.2	-3.7
50歳代	-5.1	-6.6	12.9	-1.3
60歳代	-5.8	0.5	4.3	0.9
70歳代	-7.3	8.1	2.6	-3.5
80歳以上	-11.6	4.0	7.8	-0.1
中央	-6.7	4.6	3.8	-1.9
東部	-5.4	-1.0	5.2	1.2
西部	-5.1	-1.3	2.0	4.4
南部	-1.9	0.3	7.2	-5.6
北部	-5.7	1.7	4.5	-0.6
北東部	-6.8	-1.9	10.5	-1.9



図表4-8 子どもにグローバル社会で通用する人材になってほしいか【保護者】（全体／単一回答）



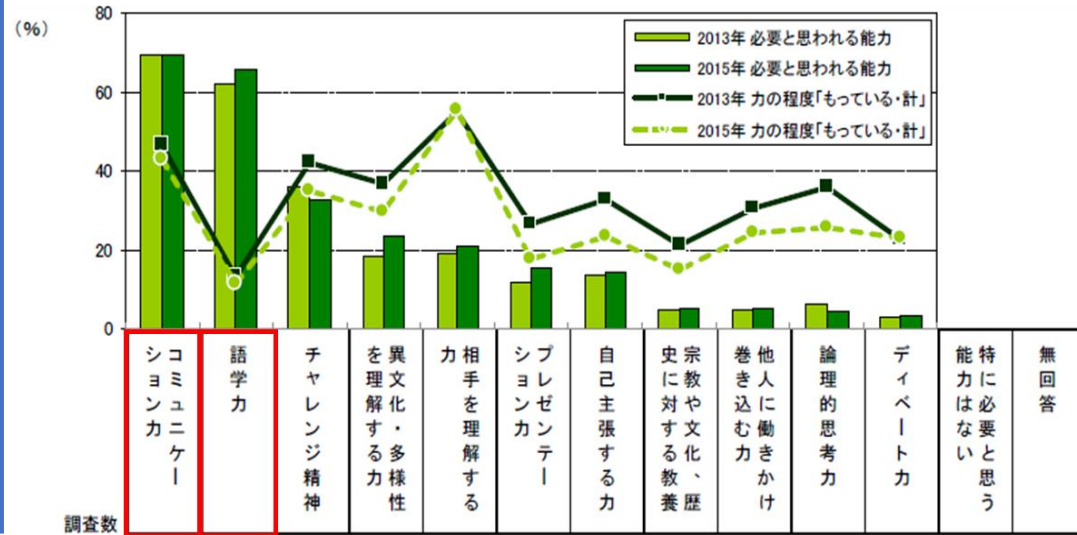
(資料) 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査  
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2019年報告書)

## 検討の視点

【国際感覚豊かで、新たな変化を生み出せる人材育成が必要】

- 小学校から大学までで育成する人材像を地元経済界と議論できているのか。今後どういった人材が求められるのかを踏まえて議論する必要があるのではないかな。
- 地方創生の中で地方大学に求められている機能を充実させ、市民や地元経済界との結び付きを強化していく必要があるのではないかな。

図表4-9 グローバル社会で通用する人材のための能力と、子どもがもっている力の程度【保護者】（複数回答・単一回答）



(資料) 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査  
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2015年報告書)

## 4 世界や地域で活躍し、未来を創造する“ひと”を育むまち

### ③ まちづくりへの市民参加機会の充実

#### 【まちづくりに対する市民参加・意見聴取の機会の充実】

- 性別・年齢・居住地域を問わず、「満足」+「やや満足」の割合が低くなっている。
- 特に、自治会・町内会活動への参加率が高い40歳代～60歳代の「満足」+「やや満足」の割合が低い。
- 役員の固定化など特定の人に負担が大きくなっている現状では、自治会・町内会活動に関わるほど負担を感じてしまい、まちづくりに対する不満が高まっていると考えられる。
- 地域別に見ると、南部の「不満」+「やや不満」の割合が最も高く、「満足」+「やや満足」の割合では西部が最も高くなっている。
- 南部は、自治会加入率は高いが、「まちづくり推進委員会の現状把握に関するアンケート」において、『次世代の担い手がいない』と回答した割合も高い地域となっている(南部の自治会加入率65.6%, 全市平均59.3%)。特定の個人への負担が大きい状態のまま活動を継続した場合、より一層不満が大きくなってしまう可能性がある。

### 検討の視点

#### 【支え合いや助け合いが維持される地域づくりが必要】

- 自治会活動を始めとする様々な地域活動に参加することの意義を整理する必要があるのではないか。
- 福山未来共創塾や地域コミュニティのあり方検討委員会、持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業などの取組を市民のまちづくりへの参加にどうつなげていくか。

図表4-10

まちづくりに対する市民参加・意見聴取の機会の充実  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	12.1	67.0	12.7	8.2
男性	11.1	68.4	14.8	5.7
女性	13.1	66.5	11.1	9.3
20歳代	13.0	68.0	17.0	2.0
30歳代	13.5	68.2	12.9	5.4
40歳代	5.9	78.6	13.4	2.1
50歳代	8.4	77.0	13.1	1.6
60歳代	9.8	67.8	14.2	8.2
70歳代	16.4	61.1	8.7	13.8
80歳以上	20.6	44.6	13.4	21.4
中央	11.4	70.4	10.4	7.8
東部	11.8	67.7	14.1	6.3
西部	18.1	63.8	10.6	7.4
南部	10.2	63.6	19.3	6.8
北部	9.7	65.9	15.2	9.2
北東部	14.1	63.2	12.2	10.4



# 5 歴史・文化が薫り、スポーツに親しめるまち

## ① 歴史・文化資源を活用したまちの活性化

【文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供，文化財の保存や保護対策の充実，歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成】

- 文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供も，文化財の保存や保護対策の充実に，全体として，「満足」+「やや満足」の割合が増加している。
- 文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供と，文化財の保存や保護対策の充実については，「満足」+「やや満足」の割合が，20歳代～30歳代で増加し，60歳代～70歳代で減少している。
- 3項目共通で，「文化・芸術，伝統行事・料理」や「歴史・文化資源」に誇りを感じる人ほど，満足度が高い。また，「満足」+「やや満足」の割合が増加したのは，文化イベントや地域の伝統行事がメディア等に取り上げられたことが増えたためではないかと考えられる。

図表5-1  
文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	1.6	-2.2	0.6	0.1
男性	6.0	-5.1	0.0	-1.0
女性	-0.7	-0.9	0.6	1.1
20歳代	4.5	-12.7	8.2	0.0
30歳代	11.1	-8.6	-3.7	1.1
40歳代	3.7	-6.2	5.2	-2.8
50歳代	1.0	0.2	0.8	-2.1
60歳代	-2.1	-0.6	2.2	0.6
70歳代	-1.1	5.9	-5.2	0.3
80歳以上	2.6	-7.6	2.8	2.0
中央	2.3	-0.8	-2.2	0.6
東部	2.4	-2.0	-1.5	1.0
西部	-1.0	-4.5	3.5	2.0
南部	15.2	-11.1	1.9	-5.9
北部	-2.6	-1.8	2.9	1.4
北東部	-5.7	-0.2	7.0	-1.2

図表5-2  
文化財の保存や保護対策の充実  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	1.1	1.4	-2.6	0.1
男性	3.3	3.2	-5.1	-1.3
女性	0.4	-0.4	-1.4	1.4
20歳代	19.3	-15.5	-2.9	-1.0
30歳代	3.8	1.1	-5.5	0.6
40歳代	2.7	4.4	-4.3	-2.8
50歳代	0.1	5.2	-4.3	-1.2
60歳代	-6.7	3.5	2.6	0.7
70歳代	-1.7	5.1	-4.4	1.0
80歳以上	8.3	-7.1	-2.3	1.1
中央	1.2	3.2	-4.6	0.3
東部	-2.2	3.5	-3.2	1.8
西部	0.5	-0.1	-2.3	2.0
南部	4.8	3.2	-4.1	-3.9
北部	1.0	-0.9	-1.4	1.3
北東部	2.7	-2.7	1.8	-1.7

図表5-3  
歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成  
2020年調査結果

	2020年構成比 (%)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	17.8	65.8	8.1	8.4
男性	16.8	67.0	10.8	5.4
女性	19.0	65.4	5.7	9.9
20歳代	29.0	62.0	8.0	1.0
30歳代	16.2	68.9	11.5	3.4
40歳代	18.1	72.7	7.5	1.6
50歳代	14.1	75.4	9.4	1.0
60歳代	13.7	68.7	9.0	8.6
70歳代	18.2	61.8	5.5	14.5
80歳以上	22.3	45.5	6.3	25.9
中央	17.8	67.6	7.5	7.1
東部	17.3	67.7	8.3	6.7
西部	19.2	66.0	6.4	8.5
南部	22.7	61.4	12.5	3.4
北部	13.5	67.6	7.0	11.9
北東部	18.8	61.3	8.5	11.3

図表5-4 文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供への満足度と文化・芸術、伝統行事・料理に誇りを感じるかどうか

	文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供に対する回答				
	2015年 構成比 (%)	満足 +やや満足	どちらとも いえない	不満 +やや不満	無回答
文化・芸術、伝統行事（とんど、地元の祭りなど）や伝統料理（うずみなどに）	全体	25.1	54.0	13.2	7.7
	誇りを感じる	29.6	59.3	9.3	1.9
	誇りを感じない	25.0	53.8	13.3	8.0

※誇りを感じる：3.6%

	文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供に対する回答				
	2020年 構成比 (%)	満足 +やや満足	どちらとも いえない	不満 +やや不満	無回答
文化・芸術、伝統行事（とんど、地元の祭りなど）や伝統料理（うずみなどに）	全体	26.7	51.8	13.8	7.8
	誇りを感じる	37.3	44.4	11.1	7.2
	誇りを感じない	25.2	52.8	14.1	7.8

※誇りを感じる：12.1%

	文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供に対する回答				
	2020年-2015年 構成比 (%ポイント)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
文化・芸術、伝統行事（とんど、地元の祭りなど）や伝統料理（うずみなどに）	全体	1.6	-2.1	0.6	0.0
	誇りを感じる	7.6	-4.8	-1.9	5.3
	誇りを感じない	0.2	-0.9	0.8	-0.1

図表5-5 文化財の保存や保護対策の充実への満足度と歴史・文化資源に誇りを感じるかどうか

	文化財の保存や保護対策の充実に対する回答				
	2015年 構成比 (%)	満足 +やや満足	どちらとも いえない	不満 +やや不満	無回答
歴史・文化資源（福山城、鞆の浦、明王院など）に	全体	20.2	63.0	9.1	7.8
	誇りを感じる	19.6	59.1	15.0	6.3
	誇りを感じない	20.3	63.9	7.7	8.2

※誇りを感じる：18.9%

	文化財の保存や保護対策の充実に対する回答				
	2020年 構成比 (%)	満足 +やや満足	どちらとも いえない	不満 +やや不満	無回答
歴史・文化資源（福山城、鞆の浦、明王院など）に	全体	21.3	64.4	6.4	7.9
	誇りを感じる	28.9	55.2	7.5	8.4
	誇りを感じない	17.4	69.1	5.9	7.7

※誇りを感じる：33.9%

	文化財の保存や保護対策の充実に対する回答				
	2020年-2015年 構成比 (%ポイント)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
歴史・文化資源（福山城、鞆の浦、明王院など）に	全体	1.1	1.4	-2.7	0.1
	誇りを感じる	9.3	-3.8	-7.6	2.1
	誇りを感じない	-2.9	5.2	-1.8	-0.5

図表5-6 歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成への満足度と文化・芸術、伝統行事・料理に誇りを感じるかどうか

	歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成に対する回答				
	2020年 構成比 (%)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
文化・芸術、伝統行事（とんど、地元の祭りなど）や伝統料理（うずみなどに）に	全体	17.7	65.8	8.1	8.4
	誇りを感じる	34.6	53.6	3.3	8.5
	誇りを感じない	15.4	67.5	8.7	8.4

※誇りを感じる：12.1%

図表5-7 歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成への満足度と歴史・文化資源に誇りを感じるかどうか

	歴史・文化資源を活用したまちの活性化と郷土愛醸成に対する回答				
	2020年 構成比 (%)	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
歴史・文化資源（福山城、鞆の浦、明王院など）に	全体	17.7	65.8	8.1	8.4
	誇りを感じる	24.5	56.2	9.6	9.8
	誇りを感じない	14.3	70.8	7.3	7.7

※誇りを感じる：33.9%

## 検討の視点

### 【歴史・文化資源を活用した市民の誇り・郷土愛を高めることが必要】

- 行政サービスに対する満足度の増加に向けてのポイントとなる、市民の誇りや郷土愛が、どうすれば高まるのかを議論する必要があるのではないか。
- 文化財の保存や歴史・文化資源を活用したまちの活性化などについて、市民がその必要性を理解し、参画してもらうための対策が必要ではないか。

# 5 歴史・文化が薫り、スポーツに親しめるまち

## ② スポーツ・レクリエーションを行うための施設整備や機会の提供

【スポーツ・レクリエーション活動を行うための施設整備や情報・機会の充実】

- 全体として、「満足」+「やや満足」の割合が増加し、「不満」+「やや不満」の割合が減少している。
- 30歳代と40歳代で「満足」+「やや満足」の割合が大きく増加し、特に30歳代では「不満」+「やや不満」の割合が大きく減少している。
- 子どものいる人の「満足」+「やや満足」の割合が大きく増加している。エフピコアリーナふくやまと、かわまち広場の整備が影響していると考えられる。
- 60歳代と70歳代では「満足」+「やや満足」の割合が微減している。80歳以上では「どちらともいえない」の割合が減少し、「満足」+「やや満足」の割合が増加している。
- 2015年との比較では、西部で「満足」+「やや満足」の割合が微減しているが、それ以外では増加しており、特に南部で大きく増加している。
- エフピコアリーナふくやまやサイクリングロードの整備といった新たな施設整備が南部や中央の満足度の向上につながっていると考えられる。
- アンケート時点では、東京オリンピック・パラリンピックの開催が近付き、スポーツを楽しむ機運が高まっていたことがスポーツへの関心の高まりにつながり、市民が関連イベントへの参加やそのための情報収集をしたことで満足度が向上したと考えられる。

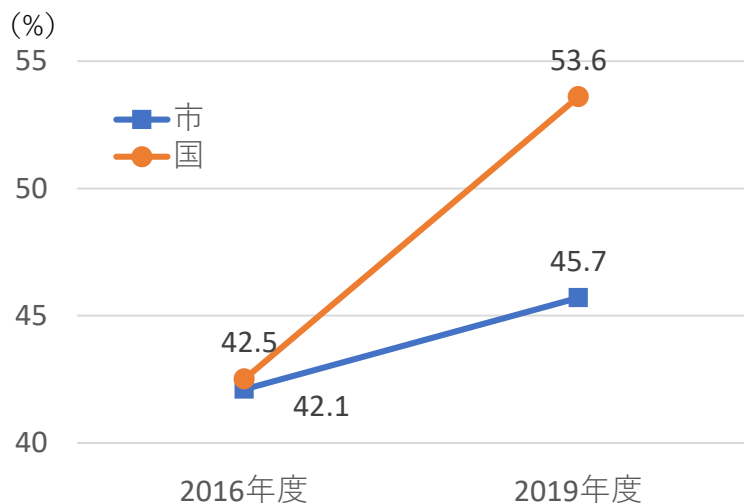
図表5-8  
スポーツ・レクリエーション活動を行うための施設整備や情報・機会の提供  
2020年調査結果-2015年調査結果

	2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)			
	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答
全体	3.4	1.8	-5.5	0.3
男性	5.0	0.7	-5.6	-0.2
女性	3.8	0.8	-5.6	1.0
20歳代	5.4	-4.8	-0.6	0.0
30歳代	11.7	0.6	-13.2	1.0
40歳代	9.0	-3.1	-3.5	-2.3
50歳代	3.1	3.3	-5.3	-1.2
60歳代	-0.7	4.2	-5.2	1.7
70歳代	-0.5	6.9	-7.2	0.9
80歳以上	5.4	-7.8	2.1	0.2
中央	4.3	0.2	-5.3	0.8
東部	5.3	3.6	-10.5	1.4
西部	-0.2	1.5	-4.0	2.8
南部	7.3	-0.2	-3.1	-3.9
北部	0.1	1.2	-1.9	0.6
北東部	2.0	6.4	-7.5	-1.0

図表5-9 スポーツ・レクリエーション活動を行うための施設整備や情報・機会の提供に対する満足度に関する子どもの有無による比較  
2020年調査結果-2015年調査結果 2020年構成比-2015年構成比 (%ポイント)

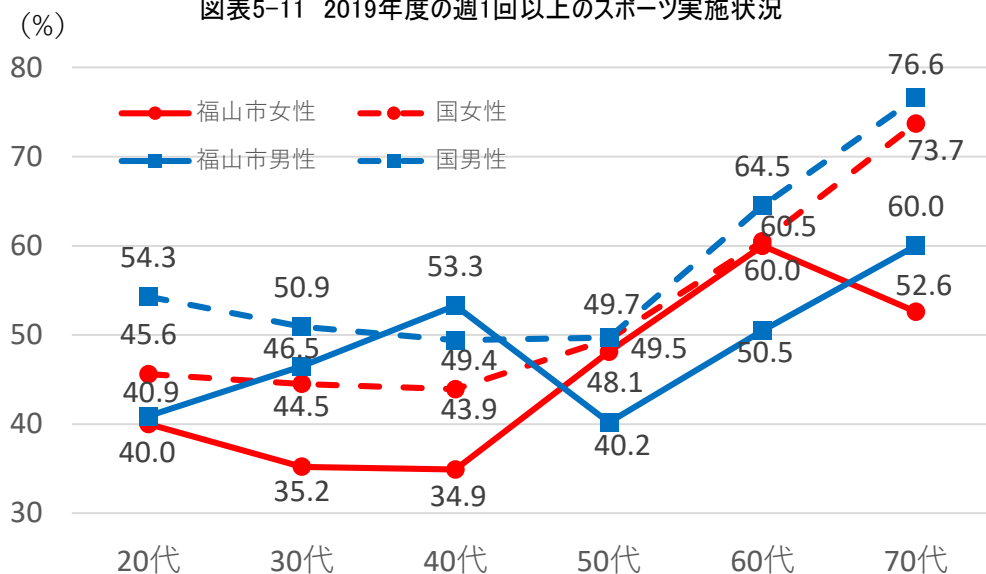
子どもの有無	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答	小学生の子どもの有無	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答	高校生の子ども有無	満足+ やや満足	どちらとも いえない	やや不満	無回答
全体	3.5	1.8	-5.6	0.4	全体	3.5	1.8	-5.6	0.4	全体	3.5	1.8	-5.6	0.4
なし	1.6	2.4	-4.5	0.5	なし	3.1	2.0	-5.4	0.4	なし	2.8	2.0	-5.2	0.4
あり	11.9	-1.0	-10.2	-0.7	あり	9.0	-1.2	-7.0	-0.8	あり	16.2	-2.5	-12.5	-1.1
就学前の子どもの有無	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答	中学生の子どもの有無	満足+ やや満足	どちらとも いえない	不満+ やや不満	無回答					
全体	3.5	1.8	-5.6	0.4	全体	3.5	1.8	-5.6	0.4					
なし	2.8	1.9	-5.0	0.4	なし	2.7	2.3	-5.4	0.3					
あり	11.1	1.0	-11.6	-0.5	あり	18.4	-9.0	-10.1	0.7					

図表5-10 週1回以上のスポーツ実施率の推移



(資料) スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」, 福山市資料

図表5-11 2019年度の週1回以上のスポーツ実施状況



(資料) スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」, 福山市資料

## 検討の 視点

### 【スポーツ・レクリエーションによる地域・経済の活性化が必要】

- 東京オリンピック・パラリンピックの開催やエフピコアリーナふくやま完成後も市民満足度の高まりを継続させるために、どのようなコンテンツを充実させるのか(例:スポーツによる地域活性化, 優秀な指導者やプロスポーツの誘致による競技力向上, 健康づくりなど)。
- スポーツ施設の老朽化が進む中, 福山市公共施設等サービス再構築基本方針や福山市社会体育施設基本計画に基づく再整備等が必要であるが, 多様化する市民ニーズや環境変化にどのように対応するのか。